

授業科目名：絵画Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木 久人 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 絵画（映像メディア表現を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 絵画を描こうとするものは対象物から受けた印象や感動を平面に定着するため，ある程度の技術と知識を必要とする。本授業は絵画制作の基礎的技能と知識の獲得とあわせて，観念的とらえ方を越えた自然や物と対話する喜びを認識することを目的とする。油彩画に関する描写力，描画材料に関する知識，観察力及び構成力を付けることができる。			
授業の概要 ・ 視覚により外界を客観的に捉える。 ・ 油彩画制作材料の特性を知る。 ・ 静物油彩画の表現について考察し，向上を図る。 ・ 映像メディア表現を体験し，その概念を検討する。			
授業計画 第1週 オリエンテーション（第10・15週の映像メディア表現での課題説明を含む），油彩画の材料，道具や技法の解説 第2週 静物油彩画制作その1 第3週 静物油彩画制作その1 第4週 静物油彩画制作その1 第5週 静物油彩画制作その1 第6週 静物油彩画制作その2 第7週 静物油彩画制作その2 第8週 静物油彩画制作その2 第9週 静物油彩画制作その2 第10週 映像メディア表現実習 第11週 静物油彩画制作その3 第12週 静物油彩画制作その3 第13週 静物油彩画制作その3 第14週 静物油彩画制作その3 第15週 映像メディア表現実習 前半の静物油彩画制作ではまず油絵具の材料，道具や技法の解説をおこない，材料の特性を			

理解し、具象絵画の基本的な技法を実践し、その見方を学ぶ。第 10・15 週の映像メディア表現では各学生により集められた映像や印刷物等をコンピュータに取り込み加工，構成する過程から新たな絵画表現の可能性を追究する。後半の油彩画制作においては無彩色のデッサンと有彩色画との関係や油彩画における制作構造の研究をおこなう。各課題の最終日に講評をおこない，その成果と今後の課題について確認する。本授業は各週が 2 コマ続きの授業である。

以上の概要については個々の学生の習得状況等により変更する場合があるため注意されたい。

【授業実施方法】

本授業は、アクティブ・ラーニング，主に実技の方法を取り入れ実施します。

テキスト

教科書は特には指定しない。

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領(平成 29 年告示, 文部科学省)

造形の基礎を学ぶ 藤村克裕 角川書店,

洋画を学ぶ I 京都造形芸術大学編 角川書店

出題されたモチーフや個々の学生がもつ課題などにより適宜，参考文献や参考図版を紹介する。

学生に対する評価

授業への取り組み状況，宿題作品への取り組み，授業時間外の制作の有無や提出作品等を総合的に判断する。

授業科目名：絵画材料 研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木 久人
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 絵画（映像メディア表現を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 絵画制作において材料研究は、作家の制作意図を達成するためには欠かせないものである。本授業は支持体や絵画材料となるさまざまな素材を実際に扱い、研究し描画材に対する知識とその応用力を養うことを目標とする。あわせて教材開発における基礎的能力、知識の習得を目的とする。			
授業の概要 ・ 支持体の製作の実際を経験する。 ・ 支持体、描画材料の調査研究を行う。 ・ テンペラ画制作を通して素材と表現の関係を研究する。 ・ 教育現場での絵画材料の展開の可能性を考える。			
授業計画 第1週 麻生地の貼り付け法 第2週 膠水の製法と布地、板地の絶縁層 第3週 白亜地塗料の処方とその塗装 第4週 支持体の分類－その特性と製造法 第5週 絵画に使用される顔料・染料の性状 第6週 メディウム・展色剤（水性・油性・エマルジョンなど）の特性 第7週 多様な描画材と技法 第8週 テンペラ・メディウムの製法と有色下地 第9週 下絵制作とその転写 第10週 パステルと油絵具の製法 第11・12週 白色によるモデリング 第13・14週 混合技法による着色 第15週 講評とまとめ 以上の概要については個々の学生の習得状況等により変更する場合があるため注意されたい。 【授業実施方法】 本授業は、以下のアクティブ・ラーニングの方法を取り入れ実施します。			

テキスト

教科書は特には指定しない。

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領(平成 29 年告示, 文部科学省)

絵画技術体系 マックス・デルナー著 美術出版社,

絵画技術全書 クルト・ヴェールテ著 美術出版社,

絵画材料ハンドブック ホルベイン工業技術部編 中央公論美術出版

その他適宜, 参考文献や参考図版を紹介する。

学生に対する評価

授業への取り組み状況, 調査・発表への取り組み, 授業時間外の制作の有無や提出作品等を総合的に判断する。

授業科目名：絵画特別 演習Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木久人
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・絵画（映像メディア表現を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 凹版、凸版、平版、孔版の技法を解説し版画技法を理解する。 その中から凹版と平版の２版種をおよそ１０点制作し、 版表現の知識と習得を目指す。			
授業の概要 版画の技法を一つ一つ体験をし、着想・描画・製版・刷り完成までどのように制作が 進むのかを工程を理解する。 また絵画の中で版画は特徴があるのかを考え、指導に生かす。			
授業計画 第１回：版画の概要 版種説明 凹版 試作実演 第２回：紙版画による剥し刷り １ 第３回：紙版画による剥し刷り ２ 第４回：紙版画による剥し刷り ３ 第５回：紙版画による剥し刷り応用 １ 第６回：紙版画による剥し刷り応用 ２ 第７回：紙版画による剥し刷り応用 ３ 第８回：平版画 版種説明 試作実演 第９回：平版画 基礎 １ 第１０回：平版画基礎 ２ 第１１回：平版画基礎 ３ 第１２回：平版画応用 １ 第１３回：平版画応用 ２ 第１４回：平版画応用 ３ 第１５回：作品批評会			
テキスト 講師の用意したプリントを各自配布し使用。			
参考書・参考資料等 授業中に適宜配布する。			

学生に対する評価

作品・課題提出・意見交換などで

総合的に考慮して評価する。

授業科目名：絵画特別 演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木久人
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・絵画（映像メディア表現を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
凹版、凸版、平版、孔版の技法を解説し版画技法を理解する。 その中から凹版と平版の 2 版種をおよそ 10 点制作し、 版表現の知識と習得を目指す。			
授業の概要			
版画の技法を一つ一つ体験をし、着想・描画・製版・刷り完成までどのように制作が 進むのかを工程を理解する。 また絵画の中で版画は特徴があるのかを考え、指導に生かす。			
授業計画			
第1回：版画の概要 版種説明 凹版 試作実演			
第2回：紙版画による剥し刷り 1			
第3回：紙版画による剥し刷り 2			
第4回：紙版画による剥し刷り 3			
第5回：紙版画による剥し刷り応用 1			
第6回：紙版画による剥し刷り応用 2			
第7回：紙版画による剥し刷り応用 3			
第8回：平版画 版種説明 試作実演			
第9回：平版画 基礎 1			
第10回：平版画基礎 2			
第11回：平版画基礎 3			
第12回：平版画応用 1			
第13回：平版画応用 2			
第14回：平版画応用 3			
第15回：作品批評会			
テキスト			
講師の用意したプリントを各自配布し使用。			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜配布する。			

学生に対する評価

作品・課題提出・意見交換などで

総合的に考慮して評価する。

授業科目名：素描	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木 久人 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 絵画（映像メディア表現を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 素描-デッサンは実技をとまなうすべての美術分野の基礎となっている。対象物をいかにとらえ、描写し、構成し、表現していくかという造形の基礎を学ぶ。本授業によって鉛筆、木炭などデッサンにおける描画材を理解し、観察力、構成力を養うことができる。あわせて使用する教材の指導、評価を理解することができる。			
授業の概要 ・ 視覚により外界を客観的に捉える ・ 鉛筆により単色表現をする ・ 木炭により単色表現をする ・ 素描における描画材料の特性を知る			
授業計画 第1週 オリエンテーション、デッサンの材料、道具や技法の解説 第2～8週 鉛筆デッサン（石膏像） 第9～15週 木炭デッサン（石膏像） 第16～22週 鉛筆デッサン（静物） 第23～30週 木炭デッサン（静物） 木炭デッサンにおいては対象のプロポーシオンや量を正確にとらえ、木炭によるデッサンの制作構造を研究する。鉛筆デッサンでは鉛筆という描画材料の特性を理解し、明暗による絵画表現を深める。各課題の最終日に講評をおこない、その成果と今後の課題について確認する。 以上の概要については個々の学生の習得状況等により変更する場合があるため注意されたい。 【授業実施方法】 本授業は、以下のアクティブ・ラーニング、実技の方法を取り入れ実施します。			
テキスト 教科書は特には指定しない。			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領(平成 29 年告示, 文部科学省)			

造形の基礎を学ぶ 藤村克裕 角川書店

洋画を学ぶⅠ 京都造形芸術大学編 角川書店

出題されたモチーフや個々の学生がもつ課題などにより適宜，参考文献や参考図版を紹介する。

学生に対する評価

授業への取り組み状況，宿題作品への取り組み，授業時間外制作の有無や提出作品等を総合的に判断する。

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：鈴木久人
絵画演習Ⅰ	選択科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める	教科に関する専門的事項		
科目区分又は事項等	・ 絵画（映像メディア表現を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
絵画を描こうとするものは対象物から受けた印象や感動を平面に定着するため，ある程度の技術と知識を必要とする。本授業は絵画制作の基礎的技能と知識の獲得とあわせて，観念的とらえ方を越えた自然や物と対話する喜びを認識することを目的とする。鉛筆画，油彩画に関する描写力，描画材料に関する知識，観察力及び構成力を付けることができる。			
授業の概要			
・ 視覚により外界を客観的に捉える。			
・ 鉛筆画，油彩画制作材料の特性を知る。			
・ 無彩色画，有彩色画の表現について考察し，向上を図る。			
・ 映像メディア表現を体験し，その概念を検討する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（第7・15週の映像メディア表現での課題説明を含む），鉛筆デッサン，素描の材料，道具や技法の解説，			
第2回：鉛筆デッサン			
第3回：鉛筆デッサン			
第4回：鉛筆デッサン			
第5回：鉛筆デッサン			
第6回：鉛筆デッサン，発表と鑑賞会			
第7回：映像メディア表現実習			
第8回：静物油彩画，油彩画の材料，道具や技法の解説			
第9回：静物油彩画			
第10回：静物油彩画			
第11回：静物油彩画			
第12回：静物油彩画			
第13回：静物油彩画			
第14回：静物油彩画，発表と鑑賞会			
第15回：映像メディア表現実習，発表と鑑賞会			
テキスト			
教科書は特には指定しない。			

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領(平成 29 年告示, 文部科学省)

造形の基礎を学ぶ 藤村克裕 角川書店,

洋画を学ぶ I 京都造形芸術大学編 角川書店

出題されたモチーフや個々の学生がもつ課題などにより適宜, 参考文献や参考図版を紹介する。

学生に対する評価

授業への取り組み状況, 宿題作品への取り組み, 授業時間外の制作の有無や提出作品等を総合的に判断する。

授業科目名： 絵画演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古草敦史 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 絵画（映像メディア表現を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 絵画制作におけるテーマの設定、モチーフの選択を通して多様な表現の探究を行い、画材の特性を生かし、発展的に用いることや自己のテーマとして感性豊かな絵画表現を目指すことができるようにする。また、自身の作品を批判的に評価できるようにする。			
授業の概要 水性絵の具と紙を用いて多様な表現を実験的に試みるなかで、自己の志向性を検討し絵画の可能性を研究するための演習を行う。			
授業計画 第1回：色彩研究①テーマ・画材設定、制作 第2回：色彩研究②制作・受講生相互のディスカッション 第3回：各自モチーフの形態研究①テーマ・画材の設定、制作 第4回：各自モチーフの形態研究②制作 第5回：各自モチーフの形態研究③制作・受講生相互のディスカッション 第6回：構想画制作Ⅰ「自然」をテーマとして①画材設定、制作 第7回：構想画制作Ⅰ「自然」をテーマとして②制作 第8回：構想画制作Ⅰ「自然」をテーマとして③制作・受講生相互のディスカッション 第9回：構想画制作Ⅱ「様々な事柄の状態」をテーマとして①画材設定、制作 第10回：構想画制作Ⅱ「様々な事柄の状態」をテーマとして②制作 第11回：構想画制作Ⅱ「様々な事柄の状態」をテーマとして③制作・受講生相互のディスカッション 第12回：構想画制作Ⅲ「様々な表現方法」をテーマとして（映像・メディア表現を含む）①画材設定、制作 第13回：構想画制作Ⅲ「様々な表現方法」をテーマとして（映像・メディア表現を含む）②制作 第14回：構想画制作Ⅲ「様々な表現方法」をテーマとして（映像・メディア表現を含む）③制作・受講生相互のディスカッション 第15回：全体講評・まとめ			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 教員作成Power Point			
学生に対する評価 出席態度及び発言貢献度（30％），学習成果物（70％）			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：
絵画ⅡA	選択科目	1 単位	古草 敦史
			担当形態：
			単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める	教科に関する専門的事項		
科目区分又は事項等	・ 絵画（映像メディア表現を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
自己の興味のありどころを見つけ、探し出したモチーフと古今の画家の作品研究によって充実した画面構成を追求する。			
授業の概要			
与えられてモチーフと各自の構想による制作によって、学校現場で美術を教える際に必要となるデッサン、彩画の実技力の向上を図る。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：構想エスキース制作①（エスキース制作・モチーフと構想の研究）			
第3回：構想エスキース制作②（エスキース制作・モチーフと構想の応用的な研究）			
第4回：構想エスキース制作③（エスキース制作・モチーフと構想の発展的な研究）			
第5回：構想エスキース制作④（エスキースについて受講者相互のディスカッション）			
第6回：油彩構想画制作①（下絵制作・デッサンの研究）			
第7回：油彩構想画制作②（下絵制作・デッサンの応用的な研究）			
第8回：油彩構想画制作③（本制作・色彩・マチエールの研究）			
第9回：油彩構想画制作④（本制作・色彩・マチエールの応用的な研究）			
第10回：油彩構想画制作⑤（本制作・色彩・マチエールの発展的な研究）			
第11回：油彩構想画制作⑥（本制作・総合的な要素の研究）			
第12回：油彩構想画制作⑦（本制作・総合的な要素の応用としての研究）			
第13回：油彩構想画制作⑧（本制作・総合的な要素の発展としての研究）			
第14回：油彩構想画制作⑨（本制作・総合的な要素の展開としての研究）			
第15回：油彩構想画制作⑩（講評会）			
テキスト			
特になし			
参考書・参考資料等			
若林直樹著『現代美術・入門』JICC出版局1989年 1,540円			
学生に対する評価			
授業への参加度（30%）、学習成果物（70%）			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：
絵画ⅡB	選択科目	1 単位	古草 敦史
			担当形態：
			単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める	教科に関する専門的事項		
科目区分又は事項等	・ 絵画（映像メディア表現を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
自己の内面を探る主観性とそれを支える客観性を大事にしながら、古今の画家の作品研究によって充実した画面構成を追求する。			
授業の概要			
各自の構想画制作によって、学校での美術を教える際に必要となる発想の展開力やデッサン、油彩画（場合によっては水性画材）の制作の実技力の向上を図る。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：構想エスキース制作①（エスキース制作・構図の研究）			
第3回：構想エスキース制作②（エスキース制作・構図の応用的な研究）			
第4回：構想エスキース制作③（エスキース制作・構図の発展的な研究）			
第5回：構想エスキース制作④（エスキースについて受講者相互のディスカッション）			
第6回：油彩構想画制作①（下絵制作・デッサンの研究）			
第7回：油彩構想画制作②（下絵制作・デッサンの応用的な研究）			
第8回：油彩構想画制作③（下絵制作・デッサンの発展的な研究）			
第9回：油彩構想画制作④（本制作・色彩・マチュールの研究）			
第10回：油彩構想画制作⑤（本制作・色彩・マチュールの応用的な研究）			
第11回：油彩構想画制作⑥（本制作・色彩・マチュールの発展的な研究）			
第12回：油彩構想画制作⑦（本制作・総合的な要素の研究）			
第13回：油彩構想画制作⑧（本制作・総合的な要素の発展としての研究）			
第14回：油彩構想画制作⑨（本制作・総合的な要素の展開としての研究）			
第15回：油彩構想画制作⑩講評会			
テキスト			
特になし			
参考書・参考資料等			
フランク・ウィットフォード 木下哲夫訳『抽象美術入門』美術出版社1999年 2,200円			
学生に対する評価			
授業への参加度（30%）、学習成果物（70%）			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：武内優記
彫刻Ⅰ	必修科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・彫刻		
授業のテーマ及び到達目標			
彫刻及び立体表現の基礎課程として、頭像をテーマとし塑造を制作する。人体モデルを使った制作をとおして、モデリング（加増の技法）による彫刻表現の基礎を学ぶ。空間に存在する立体物の把握や、存在を感じることで感性を育み、立体表現力の伸展を図る。モデルを使った制作は、観察と実践の往復であることから、自ら課題を発見し自ら考え正しく判断して問題を解決する力の養成を図る。			
到達目標			
・塑造制作，石膏取りの技法と素材の扱い方を把握できる。 ・生命感のある作品を制作できる。 ・習得した立体造形の基礎的な知識を，作品制作や教育へ生かすことができる。			
授業の概要			
・モデルをよく観察し，塑造に生かすためのデッサンを行い，自分なりの造形となるまで試行錯誤を繰り返すこと。 ・粘土や石膏の特徴や扱い方を把握し，彫刻における造形要素（量感・動勢など）を理解する。 ・塑造制作をとおして学んだことを省察し，レポート(800字以上)にまとめて提出する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス，彫刻分野と彫刻用語についての解説			
第2回：粘土の準備と養生，粘土クロッキー（面で手をつくる）			
第3回：デッサン（鉛筆・コンテ・木炭）			
第4回：心棒づくり			
第5回：塑造制作（荒付け①）			
第6回：塑造制作（荒付け②面でとらえる）			
第7回：塑造制作（骨格・筋肉についてのレクチャー）			
第8回：塑造制作（量感・動勢を意識した表現）			
第9回：塑造制作（生命感を意識した表現）			
第10回：塑造制作（仕上げ）			
第11回：石膏取り（雌型① 切金入れ・ふりかけ）			
第12回：石膏取り（雌型② 塗り込み・かき出し・型洗い）			
第13回：石膏取り（雄型 流し込み）			
第14回：作品の仕上げ（割り出しと修正）			

第15回：講評会，かた付け（レポート提出）
テキスト 特になし。
参考書・参考資料等 適宜，関係資料の紹介・配付を行う。
学生に対する評価 制作態度や意欲， 研究心（35％）， 作品（50％）， 講評会・レポート（15％）

授業科目名： 彫刻Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：武内優記
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 彫刻		
授業のテーマ及び到達目標 彫刻分野のキャストイング（型取りの技法）やカービング（削減の技法）は、モデリング（加増の技法）とともに立体表現における代表的な制作の方法であり、根幹をなすものである。本授業では、身の回りにあるものを型取りし素材の置き換えと構成を実践する。また、型取りで得た造形をヒントに木彫作品の制作を行う。これらを統合して、立体表現について考察するとともに、基本的技法の習得と材料研究及び教材研究を行い、生活の中にある造形の魅力に気づき、変化させる姿勢を涵養する。 到達目標 ・ キャストイング及びカービングの技法と表現を理解し、計画的な制作ができる。 ・ 彫刻材料等の特性や道具の扱い方を理解，実践できる。 ・ 習得した立体造形の基礎的な知識を，作品制作や教育へ生かすことができる。			
授業の概要 ・ 各々の視点で形態の持つ魅力を捉え，制作を行い，発想や構想の能力の向上を図る。 ・ 石膏，シリコン，水性樹脂や木材の種類とその特性を知り，制作をとおして技法や道具の使い方を習得する。 ・ 立体表現について参考作品を考察するとともに，制作をとおして学んだことを省察し，レポート(800字以上)にまとめて提出する。			
授業計画 第1回：授業概説および現代の彫刻について 第2回：型取り材の解説 第3回：石膏の成形 第4回：型取り①（雌型・シリコン） 第5回：型取り②（雌型・石膏） 第6回：型取り③（雄型・樹脂） 第7回：成形，構成 第8回：木材と木彫技法の解説 第9回：木彫道具の解説および木彫制作のためのデッサン 第10回：木彫制作（荒彫り①）			

第11回：木彫制作（荒彫り②）

第12回：木彫制作（面をつくる）

第13回：木彫制作（量感と空間をつくる）

第14回：木彫制作（仕上げ）

第15回：講評会，かた付け（レポート提出）

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

適宜，関係資料の紹介・配付を行う。

学生に対する評価

制作態度や意欲， 研究心（35％）， 作品（50％）， 講評会・レポート（15％）

授業科目名： 彫刻材料研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：武内優記
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 彫刻		
授業のテーマ及び到達目標 1. 図画・工作及び美術科における彫刻表現領域に焦点をあて、教材研究や用具の安全使用を含む美術科教員としての基礎知識を習得すること。 2. 彫刻作品の制作を通して造形的な表現技能の向上を図るとともに、実技をともしう教科においての相互作品鑑賞活動やコミュニケーション能力の重要性を知る。 3. 教材開発能力を身につけるとともに造形表現活動の意義を理解する。			
授業の概要 ・ 彫刻刀の手入れ及び安全使用ができるようにする。 ・ 彫刻材料の特徴を生かした表現方法を考察する。 ・ 相互鑑賞や評価活動の方法を習得する。 ・ 制作をともしう学んだことを省察し、レポート(800字以上)にまとめて提出する。			
授業計画 第1回：授業概説および作例鑑賞 第2回：彫刻（レリーフ）表現の技法について 第3回：木の特性についておよび彫刻刀の砥ぎ方実習 第4回：基本的な彫りの演習（刀の使い方） 第5回：基本的な彫りの演習（日本の伝統技法を知る） 第6回：作品構想・図案の決定 第7回：木彫レリーフの制作（図案の転写と彫りの手順） 第8回：木彫レリーフの制作（線彫り） 第9回：木彫レリーフの制作（仕切り込み） 第10回：木彫レリーフの制作（浮き彫り） 第11回：木彫レリーフ（浮き彫り） 第12回：木彫レリーフ（仕上げ彫り） 第13回：木彫レリーフ（仕上げ・やすりがけ、着色 他） 第14回：題材設定と学習効果 第15回：講評会，かた付け（レポート提出）			
テキスト			

特になし。
参考書・参考資料等
適宜，関係資料の紹介・配付を行う。
学生に対する評価
制作態度や意欲， 研究心（３５％）， 作品（５０％）， 講評会・レポート（１５％）

授業科目名： 彫刻特別演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：武内優記
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 彫刻		
授業のテーマ及び到達目標			
彫刻等の立体表現の中でも空間を含めて作品とする表現方法（インスタレーション）が、人々の体験に変化を与える方法論として用いられている。本授業では、特定の空間を想定した模型によるインスタレーション作品の制作を通して、空間全体を使った表現について考察するとともに、構成力や発想力の進展を図る。また、インスタレーション作品を研究し、そのコンセプトや効果について理解するとともに、現代の社会と連動した表現の多様性の理解に役立てる。			
到達目標			
・ 素材の選択から加工、仕上げまで計画的な制作ができる。 ・ コンセプトと表現の連関について、自分なりの整理ができる。 ・ 習得した知識・技能を作品制作や様々な学びの場へ生かすことができる。			
授業の概要			
・ インスタレーションの特性を理解し、発想や構想の能力の向上を図る。 ・ 模型制作では視点の変化を意識し、素材の選定から加工方法までを習得する。 ・ 空間表現について参考作品を考察するとともに、制作をとおして学んだことを省察し、レポート(800字以上)にまとめて提出する。			
授業計画			
第1回：授業概説および空間の彫刻及びインスタレーションについて			
第2回：フィールドワーク・アイデアスケッチ①（観察）			
第3回：フィールドワーク・アイデアスケッチ②（コンセプトノート）			
第4回：フィールドワーク・アイデアスケッチ③（採寸・作図）			
第5回：模型制作①（製材）			
第6回：模型制作②（組立）			
第7回：模型制作③（加工・構成）			
第8回：模型制作④（構成・着色）			
第9回：中間講評 プレゼンテーション			
第10回：インスタレーション①（造形）			
第11回：インスタレーション②（組立）			
第12回：インスタレーション③（配置）			

第13回：インスタレーション④（構成）

第14回：インスタレーション⑤（仕上げ・記録）

第15回：講評会，かた付け（レポート，作品写真提出）

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

適宜，関係資料の紹介・配付を行う。

学生に対する評価

制作態度や意欲， 研究心（35％）， 作品（50％）， 講評会・レポート（15％）

授業科目名： 構成・デザインI	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 内藤隆
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・デザイン（映像メディア表現を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業では、デザインの観点から図画工作・美術における造形教育面での初歩的資質の獲得を目指す。各素材を扱いながら、平面・立体の構成・デザインの基礎的な造形力・表現力を理解・獲得する。これらのトレーニングには手作業に加えコンピュータも使用し、技量を広げていく。			
授業の概要			
・イラストボードを素材に立方体を制作し、精密な工作能力と目を養う。 ・文字の配置・構成トレーニングを行い、文字の形体把握と構成について考える。 ・シンボルマーク案の作成により、クライアントを意識させ、アイデアの量産と選別を経験する。 ・カメラの構造解説とスタジオ撮影実習を行い、デジタルカメラ等の基礎的用法を学ぶ。 ・古典映像玩具を作成し、これをパソコン上で動画データ化を行い、映像の基礎を体験する。 ・図法の解説と特定のスペースを想定した透視図・不等角投影図の作成を行い、生活上で応用すべく基礎的な図法概念の獲得を図る。 ・木製玩具の制作を通して、実習室の加工用具の基礎的用法の修得を図ると同時に、考える事とその具現化の楽しみを確認する。			
授業計画			
第1回：授業運営説明，実習材料の購入手続き			
第2回：イラストボードによる立方体制作			
第3回：タイポグラフィの初歩的デザイン制作演習			
第4回：タイポグラフィとシンボルマークの初歩的デザイン制作演習			
第5回：シンボルマークの初歩的デザイン制作演習			
第6回：写真撮影に関する解説			
第7回：写真撮影に関する実習			
第8回：フォトレタッチソフトを応用したアニメーション制作演習			
第9回：フォトレタッチソフトを応用したアニメーション制作演習			
第10回：図法の解説と演習			
第11回：斜投影・透視図法による室内レイアウト案の制作			

第12回：斜投影・透視図法による室内レイアウト案の制作

第13回：木製玩具のデザイン制作

第14回：木製玩具のデザイン制作

第15回：木製玩具のデザイン制作，作品撮影

テキスト

「世界の絵文字1」（桑山弥三郎 編，柏書房）

「JAGDA教科書1～4」（日本グラフィックデザイナー協会教育委員会 編，六耀社），他。

参考書・参考資料等

適宜，参考文献の紹介，関係資料の配付を行う。

学生に対する評価

受講態度，及び提出作品により総合的に評価する。

授業科目名： 構成・デザインII	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 内藤隆
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・デザイン（映像メディア表現を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業は「構成・デザインI」で体験・育成された基礎資質をさらに深化させ、コンピューターを応用する制作を中心に造形力の向上・修得を目指す。画像処理と構成を実習を通して学び、実用的なレベルへと高める。これによりデザイン制作・プレゼンテーションの技術を高め、教育力のみならず現場での多様な応用に資する力を付ける。またキャッチコピーとそのポスター考案や、立体や照明へのアプローチを考慮した課題も行う。			
授業の概要			
グラフィックデザインで使用するソフトの用法を演習を交えて解説した上、以下の課題を行う。 。 ・簡単な説明地図を制作し、用法の基礎を復習する。 ・各自でテーマを設定し簡易解説書を制作、技術及び構成力の向上を図る。 ・キャッチコピーの考案演習を行うと同時にポスター制作を行い、伝える効果を考え磨く。 またモノと人との関係を再考するため、以下の課題を行う。 ・身の回りの既製品の改良案を考案し、デザインの考え方を再認識する。 ・ケント紙による照明カバー作成を行い、紙素材工作及び光の効果による美を考える。			
授業計画			
第1回：授業運営説明，図形ツール・ペンツール・文字入力の解説（Illustrator使用）			
第2回：その他のツール，トリムマーク等の解説（Illustrator使用）			
第3回：画像加工復習，ペンツール・選択範囲等の解説と演習（Photoshop使用）			
第4回：ツールボックス・フィルターメニュー等の解説と演習（Photoshop使用）			
第5回：地図作製演習制作演習			
第6回：地図作製演習制作演習			
第7回：地図作品・講評，簡易解説書制作演習			
第8回：簡易解説書制作演習			
第9回：簡易解説書制作演習			
第10回：簡易解説書・講評，キャッチコピー考案			
第11回：キャッチコピー集計・選抜			
第12回：キャッチコピーのためのポスター制作			

第13回：ポスター講評，既製品のリ・デザイン演習

第14回：リ・デザイン講評，光の特性について確認講義，照明カバー制作演習

第15回：照明カバー制作演習・講評とまとめ

テキスト

特に指定は無し。

参考書・参考資料等

適宜，参考文献の紹介，関係資料の配付を行う。

学生に対する評価

受講態度，及び提出作品により総合的に評価する。

授業科目名： 構成・デザイン材料研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：内藤 隆
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・デザイン（映像メディア表現を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業の目的】 日々の生活の中にある様々なデザインを詳しく考察し，その中でコンセプト形成や素材収集・構成など一連のデザイン制作過程を実習形式で学ぶ。			
【達成目標】 実践的なデザイン制作過程を体験することで，技術力や構成力など自己の制作表現の幅を広げ ることを目標とする。			
授業の概要			
・ソフトの基本概念・操作方法についての確かつスムーズに進行できるよう例題素材を充実させる。 ・各課題内容の明確なコンセプトを自ら把握し，過去の作品や資料提供を整え、的確に受講生に指示できるようにする。 ・完了した課題作品の合評会を，スムーズに進行できるよう機材提供や進行方法を事前に用意しておく。また評価・改善点などを具体的に指摘する。			
授業計画			
第1回：授業運営説明・各課題説明の概要 デザイン制作ソフトの基本概念・操作の説明1			
第2回：デザイン制作ソフトの基本概念・操作の説明2			
第3回：デザイン制作ソフトの基本概念・操作の説明3 課題作品1の説明			
第4回：課題作品1の素材作り・構成案スケッチ			
第5回：課題作品1のデザイン作成1			
第6回：課題作品1のデザイン作成2			
第7回：課題作品1のデザイン作成3			
第8回：課題作品1の合評会			
第9回：課題作品2の素材作り・構成案スケッチ			
第10回：課題作品2の素材作り・構成案スケッチ			
第11回：課題作品2のデザイン作成1			
第12回：課題作品2のデザイン作成2			
第13回：課題作品2のデザイン作成3			

第14回：課題作品2のデザイン作成4

第15回：課題作品2の合評会・作品提出

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

必要に応じて参考文献の紹介，関係資料の配付を行う。

学生に対する評価

指定課題作品の提出で評価する

データ管理も評価対象とする。

授業科目名： 構成・デザイン特別演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 内藤隆 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・デザイン（映像メディア表現を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業は「構成・デザインI」で触れた立体デザイン体験・資質を更に深化させ、構造・材質・加工等の知識技術とデザインの合致に体験的に取り組み、美術教育に資する更なる能力を獲得して行く。			
木材を主な材料とし小型の家具をデザイン・制作する。場合に応じて技術講座木材加工分野の協力を受ける。			
取材または資料などからのサンプリング、多数のアイデア捻出とその絞り込みを行い、デザインを決定して行く。また、工作段階ではそれぞれの目的に応じた木材加工を通じて実材や精度に対する感覚を養っていく。完成後は各自スタジオを使用し、作品記録の為の撮影を行う。			
授業の概要			
・木製小型家具のデザインから制作までを行い、素材への関心、既製家具等への注意力、設計・造形時の思考力・技術力の涵養を図る。 ・作品撮影を行い、プレゼンテーション力の向上も図る。			
授業計画			
第1回：授業運営説明、小型家具制作のデザイン課題説明、素材説明			
第2回：取材及び資料からのサンプリング、アイデアスケッチ制作			
第3回：アイデアチェック、問題点の洗い直し			
第4回：アイデアの絞り込み			
第5回：原寸製図			
第6回：原寸製図			
第7回：製図チェック及び材料発注			
第8回：加工検討及び素材検討			
第9回：ケガキ等作業			
第10回：実制作（D-404及び技術講座木工室）			
第11回：実制作（D-404及び技術講座木工室）			
第12回：実制作（D-404及び技術講座木工室）			
第13回：実制作（D-404及び技術講座木工室）			
第14回：実制作（D-404及び技術講座木工室）			

第15回：講評及び作品撮影

テキスト

「50 CHAIRS」 (Mel Byars (著), Roto Vision) , 「50 TABLES」 (Mel Byars (著), Roto Vision) , その他
--

参考書・参考資料等

適宜, 参考文献の紹介, 関係資料の配布を行う。

学生に対する評価

受講態度, 及び提出作品により総合的に評価する。

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担 当 教 員 名 ：
映像メディア表現	選択科目	2 単位	佐原 理
			担当形態：
			単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める	教科に関する専門的事項		
科目区分又は事項等	・デザイン（映像メディア表現を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業の目標は美術教育における映像メディア領域がどのような経緯で導入され、どのような能力形成が可能なのか、実践的な授業運営方法論やテクノロジーの活用方法を学ぶことを目標とする。特にデザインとは何かという基礎的な知識を得るとともに、映像によるデザインと映像のデザインの2つの視点から美術教育における映像の活用方法に焦点をおく。			
授業の概要			
映像のデザインという視点からは主に原初の映像装置による体験等に依拠しながら諸処の映像表現やその方法論について学ぶ。また、映像によるデザインという視点から、主に個人が 20 世紀に撮影・記録した映像群を公共財と位置づけ、そこに映し出された大きな歴史に回収されない貴重な個々の物語に価値を見出しながら、それらが現代のコミュニティーの中で新しい物語を紡ぎ出すための手段とする方法論を学ぶことを通し、デザインすることの基礎的な知識を身につける。			
授業計画			
第1回：デザインとは何か？イタラティブなデザインプロセスとプロトタイピング			
第2回：映像撮影とアニメーションデザインワークショップ1：コマドリでうごかす			
第3回：映像撮影とアニメーションデザインワークショップ2：体をつかう			
第4回：映像撮影とアニメーションデザインワークショップ3：描き出す			
第5回：映像撮影とアニメーションデザインワークショップ4：光をつかう			
第6回：映像撮影とアニメーションデザインワークショップ5：自作プレイドーをつくる			
第7回：映像のデザイン：制作発表とディスカッション			
第8回：映像撮影とアニメーションワークショップ6：クレイアニメーションで表現する			
第9回：記録写真とフィールドワーク：白黒写真をカラー化する1（写真画像技術の解説）			
第10回：記録写真とフィールドワーク：白黒写真をカラー化する2（写真画像技術の実践）			
第11回：記録写真とフィールドワーク：プレゼンテーション 1（作品のプレゼンテーション）			
第12回：記録写真とフィールドワーク：プレゼンテーション2（作品の講評と展示）			
第13回：マッピングしてストーリーを構成する。			
第14回：映像によるデザインの振り返りとディスカッション			
第15回：映像によってデザインするとは？まとめとレポート制作のためのテーマ			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
・アンソニー・ダン（著）、フィオーナ・レイビー（著）「スペキュラティブ・デザイン 問題解決から、問題提起へ。—未来を思索するためにデザインができること」ビー・エヌ・エヌ新社			
・広瀬 秀雄（著）、矢牧 健太郎「図説 映像トリックー遊びの百科全書」河出書房新社			
東京都写真美術館（監修）、森山 朋絵（編集）「映像体験ミュージアムーイマジネーションの未来へ」工作舎			
・神林 恒道 ふじえ みつる（監修）「美術教育ハンドブック」三元社			
・原田 健一、石井 仁志他「映像は未来とともに懐かしさは未来とともにやってくる:地域映像アーカイブの理論と実際」学文社			

- ・ 岩井俊雄 「岩井俊雄の仕事と周辺」 六耀社
- ・ Becci Manson 「(Re)touching lives through photos 」 『Ted.com』
http://www.ted.com/talks/becci_manson_re_touching_lives_through_photos

学生に対する評価

作品のポートフォリオ評価 60% 最終レポート 40%

授業科目名： 工芸 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：栗原 慶 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 工芸		
授業のテーマ及び到達目標 ＜目的及び主旨＞工芸は生活に根ざした芸術ともいえ、その表現には自然や他者を尊重し対話をしていく姿勢が求められる。この姿勢は、本学の理念で示されている主体的に生きることや文化の創造、豊かな個性を育むことにもつながっていくものとする。教科の専門的知識である陶芸の基礎知識・基本的技法の習得をしていくなかで、自らの工芸観を養う。 ＜到達目標＞①陶芸制作における基礎技法を習得する②素材である陶土の特性を理解する③多様な工芸観を整理できる			
授業の概要 ・ 陶芸制作の基本である荒練り、菊練りを体得する ・ 制作技法である、ひも作り・玉作り・タタラ作りを習得する ・ 基礎的な絵付け方法・施釉方法を習得する ・ 焼成方法について学び、実践する			
授業計画 第1回：授業概説 第2回：土練り実習・作品成形（玉作り、ひも作り） 第3回：土練り実習・作品成形（削り） 第4回：土練り実習・作品成形（タタラ成形） 第5回：素焼窯入れ及び焼成 第6回：素焼き後の作品に下絵付けと釉薬掛け 第7回：本焼窯入れ及び焼成 第8回：講評・作品成形（茶器等の制作） 第9回：作品成形（茶器等の制作） 第10回：作品成形（大物の制作） 第11回：作品成形（大物の制作） 第12回：素焼窯入れ及び焼成 第13回：素焼き後の作品に下絵付けと釉薬掛け 第14回：本焼窯入れ及び焼成 第15回：窯出し：片付け：作品発表と講評：授業アンケート			
テキスト テキストは特に指定しない。			

参考書・参考資料等

「伝統工芸ってなに？」日本工芸会

その他、適宜参考文献の紹介，関連資料を配布する

学生に対する評価

制作，レポート，授業への取り組みにより総合的に評価する。

授業内で課す課題（60％），最終レポート（20％），授業への積極的な参加の態度（20％）

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：栗原 慶
工芸Ⅱ	選択科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 工芸		
授業のテーマ及び到達目標			
<目的と主旨>本授業は工芸Ⅰの学習内容を更に深化させていく内容とする。工芸観を養うことや工芸制作の技能習得は、素材に対して様々なアプローチを繰り返すことによって達成することができる。ロクロによる手仕事の技能習得や、鋳込み制作での空間演出を考慮した制作をとおり、陶芸制作の基盤を養う。 <到達目標>①ロクロの成形技術を習得する②鋳込みの技法を習得する③工芸観を養いその造形思考について自らの考えを発表できる			
授業の概要			
・ ロクロ成形を習得する為に、器の制作を反復して行う ・ 釉薬の調合を行い原料の役割を理解する ・ 鋳込み技法でランプシェードを制作する			
授業計画			
第1回：授業概説・ロクロによる制作（成形）			
第2回：ロクロによる制作（削り）			
第3回：ロクロによる制作（成形）			
第4回：ロクロによる制作（削り）			
第5回：加飾（化粧土の掻き落とし）			
第6回：素焼窯入れ及び焼成・釉薬の調合			
第7回：素焼き後の作品に下絵付けと釉薬掛け			
第8回：本焼窯入れ及び焼成			
第9回：ランプシェードの原型制作			
第10回：石膏型制作			
第11回：石膏型制作			
第12回：鋳込み制作			
第13回：鋳込み制作			
第14回：本焼窯入れ及び焼成			
第15回：窯出し：片付け：作品発表と講評：授業アンケート			
テキスト			
テキストは特に指定しない。			
参考書・参考資料等			

授業科目名： 工芸材料研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 福井一真
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 工芸		
授業のテーマ及び到達目標 【テーマ】段ボールや鉄、木を用いた造形活動を行った後、小刀や鉋を用いた制作を行います。 制作ではお箸をつくるための治具を制作するなど「工芸」的な制作方法を体験しつつ、形状の美しさやおもしろさなどを追求していきます。 【到達目標】 （１）活動に主体的に取り組むことができる。 （２）「つくりながら考える」造形プロセスについて説明ができる。 （３）木を素材とした「工芸」的な制作方法を理解する。			
授業の概要 本授業は段ボールや鉄、木を用いた課題の実施を通して「つくりながら考える」造形プロセスについての理解を深めます。さらに鉋を用いた「お箸制作」では治具をつくる「工芸」的な手法を経験するだけでなく、鉋や小刀といった木を加工するための道具の基礎的な知識や技能を培うことを目的としています。			
授業計画 第1回：ガイダンス及び造形活動1：「コロタマコースター」 第2回：造形活動2：「コロタマコースター」の鑑賞 第3回：「つくりながら考える」造形プロセスの解説 第4回：造形活動3：たたいてたたいて五寸釘 第5回：造形活動4：きってつないで木のカタチ 第6回：お箸制作1：治具をつくる角材の準備 第7回：お箸制作2：治具を鉋で仕上げる 第8回：お箸制作3：お箸を鉋で削る（樹種A） 第9回：お箸制作4：お箸を鉋で削る（樹種B） 第10回：お箸制作5：お箸を仕上げる 第11回：造形活動5：よばい棒（のこぎり・小刀・クランプの使用方法） 第12回：造形活動5：よばい棒（角材の成形） 第13回：造形活動5：よばい棒（面と線の関係） 第14回：造形活動5：よばい棒（仕上げ）			

第15回：成果発表とまとめ

テキスト

適宜課題資料等を配布します

参考書・参考資料等

適宜課題資料等を配布します

学生に対する評価

課題 84 点（課題 1：6 点／課題 2：12 点／課題 3：6 点／課題 4：30 点／課題 5：30 点）

最終レポート：6 点

その他加点：10 点

上記を課題の進捗に合わせて総合的に判断します。

授業科目名： 工芸演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：栗原慶 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 工芸		
授業のテーマ及び到達目標 < 目的及び主旨 > 工芸は生活に根ざした芸術ともいえ、その表現には自然や他者を尊重し対話をしていく姿勢が求められる。工芸観を養うことや工芸制作の技能習得は、素材に対して様々なアプローチを繰り返すことによって達成することができる。このことは、主体的に生きることや文化の創造、豊かな個性を育むことにもつながっていくものとする。 < 到達目標 > ① 楽焼に関する知識と技術を習得する。 ② 工芸の造形要素と意義を説明できる。			
授業の概要 ・ 陶芸制作の基礎的な造形技法を確認するとともに、楽焼技法による焼成を行う。 ・ 「素材」「造形」「機能性」をテーマとした茶碗制作を行う。			
授業計画 第1回（1日目）：授業概要の説明と陶芸の造形技法確認 第2回（1日目）：陶芸の造形技法実践 第3回（1日目）：作品（茶碗）制作 第4回（1日目）：作品（茶碗）制作 第5回（1日目）：作品（茶碗）制作 第6回（2日目）：作品の荒削り 第7回（2日目）：作品の仕上げ削り 第8回（2日目）：作品の仕上げ削り 第9回（2日目）：作品の加飾 第10回（2日目）：釉薬掛け：乾燥炉で乾燥 第11回（3日目）：楽窯作り（テント設営） 第12回（3日目）：楽窯作り（耐火煉瓦とガスバーナーで築窯） 第13回（3日目）：焼成 第14回（3日目）：焼成 第15回（3日目）：窯出し、片付け、作品発表と講評、授業アンケート			
テキスト テキストは特に指定しない。適宜、関連資料を配布する。			

参考書・参考資料等

「図画工作・基礎造形-美術教育の内容-」 建帛社

「伝統工芸ってなに？」 日本工芸会

「はじめての楽焼陶芸」 誠文堂新光社

学生に対する評価

授業への参加度（40%），学習成果物（60%）

授業科目名： 美術理論・美術史Ⅰ		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名： 小川勝	
						担当形態： 単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）					
授業のテーマ及び到達目標							
過去に制作されて現在まで存在しつづけている美術作品の芸術的本質を理解することが授業の目的である。そのため、それ自体歴史的存在である美術作品が、どのような時代のいかなる社会で制作されたかを検討する。その上で、一般の歴史とは異なる論理で展開する美術の流れの中にそれぞれの作品を位置づける。 授業では、すべての時代を取り扱うわけではないが、特定地域の特定の時代の作品群を詳細に観察することにより、受講生も知識として得た情報による一方的な見方ではなく、まず作品を凝視し、自分の目が見つけ出した事物を、自分の言葉遣いで記述することで、あらゆる地域のあらゆる時代の美術作品に対する、自分独自の見方を習得すれば、この授業の目標に到達したことになるだろう。							
授業の概要							
本講義では、主に西洋の作品に限定して考察し、さらに時間的制約のために、先史時代から現代に至る時代の中から特定の時期にしばって作品を見てゆくことにする。その上で、西洋以外の作品を見るため、同時代の日本及びアジアの作品がどのようなものであったかについても、その代表的な作例を通じて考察する。今年度は「先史・古代」を取りあげる。							
授業計画							
第1回：はじめに							
第2回：洞窟壁画Ⅰ、ラスコーなど							
第3回：洞窟壁画Ⅱ、アルタミラなど							
第4回：先史岩面画、レバント美術など							
第5回：巨石美術Ⅰ、マルタなど							
第6回：巨石美術Ⅱ、ストーンヘンジなど							
第7回：エジプト美術Ⅰ、ピラミッドなど							
第8回：エジプト美術Ⅱ、ツタンカーメンのマスクなど							
第9回：エジプト美術Ⅲ、クレオパトラの神殿など							
第10回：メソポタミア美術Ⅰ、ギョペックリ・テペ遺跡など							
第11回：メソポタミア美術Ⅱ、ペルシャなど							

第12回：地中海美術Ⅰ、キュクラデスなど

第13回：地中海美術Ⅱ、クレタなど

第14回：同時代の東洋美術、縄文式土器など

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

授業中に適宜指定する。

参考書・参考資料等

授業中に適宜指定する。

学生に対する評価

定期試験の結果に、受講姿勢などを加味して、総合的に評価する。

授業科目名： 美術史演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小 川 勝
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 美術史は感覚的に感受した作品を言語化するための方法でもある。見た物事をことばにすることによって、より深い作品理解が可能になるだろう。これは図画工作・美術の教員にとって必要なことである。作品の魅力を他の受講生にプレゼンテーションして、上手く伝えられたらこの授業の目標に到達したといえるだろう。			
授業の概要 本演習では、受講者それぞれの関心に従って日本や東洋も含む世界各地の美術作品に関して討論を行う。また、作品を実見するために美術館などを見学することも予定している。			
授業計画 第1回：はじめに 第2回：発表と討論1 第3回：発表と討論2 第4回：発表と討論3 第5回：発表と討論4 第6回：発表と討論5 第7回：西洋美術の見学1 第8回：西洋美術の見学2 第9回：西洋美術の見学3 第10回：西洋美術の見学4 第11回：東洋・日本美術の見学1 第12回：東洋・日本美術の見学2 第13回：東洋・日本美術の見学3 第14回：東洋・日本美術の見学4 第15回：まとめ			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等			

授業中に適宜指定する。

学生に対する評価

授業での問題提起・討論の内容、レポートなどを総合的に判断して成績評価する。

授業科目名： 美術理論・美術史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小川勝 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 美術の魅力を伝えるためには、日頃から美術作品について考える習慣を身につけておくことが大切である。美術の教員にとっても、それは基本的な資質であるといえよう。美術について受講者独自の考え方が得られれば、本講義受講の目標に到達したといえるだろう。			
授業の概要 この講義では、人類最初の美術作品である「洞窟壁画」について詳しく紹介し、その時代的背景や、造形原理、また、使用された材料・技術を見てゆく。さらには、表現された意味内容についても考察を進める。			
授業計画 第1回：洞窟壁画の発見・アルタミラⅠ 第2回：大天井画の作品群・アルタミラⅡ 第3回：洞窟壁画の認定・フォン＝ドゥ＝ゴーム 第4回：洞窟壁画の解釈・ニオー 第5回：洞窟壁画の宗教性・ペシュ＝メルル 第6回：洞窟壁画の芸術性・ラスコーⅠ 第7回：情景などの解釈・ラスコーⅡ 第8回：研究の進展・ルフィニャックなど 第9回：海底の洞窟壁画・コスケールⅠ 第10回：指の欠けた手形・コスケールⅡ 第11回：最新の大発見・ショーヴェⅠ 第12回：特異な表現など・ショーヴェⅡ 第13回：野外の岩面刻画・コアなど 第14回：立体作品・ホーレ・フェルスのヴィーナスなど 第15回：人間にとって美術とは何か			
テキスト 授業中に適宜指定する。			
参考書・参考資料等 授業中に適宜指定する。			
学生に対する評価			

レポートにより成績評価する。レポートのテーマは講義の中で随時指定する。

授業科目名： 美術教育の未来を考 える	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：山田芳明 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 美術教育の通時的変遷を入り口に現代において美術教育に求められる変化をグローバルな視点から眺望しその教育的意義と可能性を理解する。また、SDGsなどの国際的目標においてどのように美術教育が寄与可能なのか、特にインクルーシブ教育の観点からその役割を理解する。さらに美術教育におけるテクノロジーの利活用や求められる汎用的能力の育成といった副次的な役割を理解する。			
授業の概要 我が国の美術教育の中心的価値は創造性や感性に根ざした教育にある。本授業ではそうした伝統的な美術教育がどのように変遷し、グローバルな視点から美術教育がどのように位置づけ可能なのか、United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization(UNESCO)やInternational Society for Education through Art(InSEA=国際美術教育学会)といった国際機関の指標に沿って理解する。また21世紀型能力などの汎用的能力や、SDGsに沿ったインクルーシブ教育など現代の美術教育に求められる諸般の項目について紹介し、実際の教育現場での事例に学ぶ。また、教育現場でどのようにテクノロジーを美術教育に活用可能なのか、上記のグローバルな視点を踏まえ、実際の現場教員や支援企業などからワークショップ形式で学び教育現場での即戦力として活用可能なスキルを身につける。以上を通して日本国の美術教育を省察的に学び、どのように進展すべきか授業実践者とともに考え、美術教育の未来を担う実践的な知識およびスキルを身につけ、持続的に学び続ける姿勢とノウハウを体得する。			
授業計画 第1回： イントロダクション：これまでの美術教育とこれから 第2回： InSEAは何をしてきたのか？今求められる美術教育の変化 第3回： 持続可能な社会とグローバルアートエデュケーション 第4回： 世界の潮流からみる美術教育のこれから 第5回： 持続可能な社会とインクルーシブ教育 第6回： インクルーシブ教育の最前線 第7回： インクルーシブ教育とテクノロジー 第8回： 美術教育とテクノロジー：ギガスクールの現場から1（デジタル端末に触れる） 第9回： 美術教育とテクノロジー：ギガスクールの現場から2（アプリケーションを知る）			

第10回：美術教育とテクノロジー：ギガスクールの現場から3（制作ツールを知る）
第11回：美術教育の未来を考える－AIと美術教育
第12回：美術教育の未来を考える－求められる資質能力
第13回：これからの美術教育を担うために：自ら考え未来をつくる教師になるために
第14回：総括とまとめ
第15回：レポート作成とフィードバック

テキスト

なし

参考書・参考資料等

神林恒道 ふじえみつる「美術教育ハンドブック」三元社

学生に対する評価

毎授業のレポート40% 最終レポート 60%

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：
先端芸術表現論	選択科目	2 単位	佐原 理
			担当形態：
			単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
問い：「最先端芸術はいかにして教育的観点から豊かな社会を探究する手段となるのか？」			
目標：履修者は上記のテーマに対して表現プロセスのデザインを通して自らの答えを導き出すことを目標とする。			
授業の概要			
我が国の美術教育の中心的価値である創造性や感性に根ざした教育という枠組みから、ポストヒューマニズム社会における AI などのテクノロジーが社会の中でどのように位置付けられるのか、最先端芸術の視点から我々の社会の持続可能性や諸侯の課題を探究する。最先端芸術表現がいかに教育的視点からより批判的な知識や地域社会を豊かにする手段となり得るのか、美術・教育の観点から先端芸術を掘り下げる。			
授業計画			
第 1 回：イントロダクション：GlobalMediaArts 21 世紀のメディア表現と美術教育			
第 2 回：現代美術：先端芸術は何をみるのか？未来と芸術			
第 3 回：現代美術：先端芸術と教育ー多様性と持続可能性を模索する現場			
第 4 回：先端芸術表現の通時的変遷			
第 5 回：映像ってなんですか？：映像の発見で社会はどうか変わった？			
第 6 回：映像と認知の関係：身体への眼差し：生命をみつめる・生命を与える			
第 7 回：映像教育の現場から：映像メディアによる教育は何ができるのか？			
第 8 回：映像メディア表現を実践するー映像：アニメーションと身体			
第 9 回：映像メディア表現を実践するー映像とテクノロジー			
第 1 0 回：映像メディア表現を実践するー映像表現と映像による表現			
第 1 1 回：映像メディア表現を実践するー映像とメディアの先端			
第 1 2 回：映像メディア表現を実践するー美術教育と先端表現			
第 1 3 回：美的世界への眼差し：美的表現としてのアニメーションデザイン			
第 1 4 回：社会を捉える眼差し：ドキュメンタリーとしてのアニメーションデザイン			
第 1 5 回：振り返り：作品制作とレポート提出			
テキスト			
授業時に指定			
参考書・参考資料等			
森美術館「未来と芸術 Future and the Arts」美術出版社			
学生に対する評価			
学習成果物（40%） , レポート（60%）			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：吉川 暢子
20 世紀の美術理論と現在	選択科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 本授業の目標は美術教育をどのような学説に立って教育するのか、その諸侯の基盤的理論や教育原理を理解することである。さらには、そうした基盤的理論の理解を本授業の礎とした上で、最先端の美術教育研究を学ぶ手続きや研究の現場に学び、将来にわたって持続的に調査研究し教育現場においても最新の学説を学び続ける姿勢を獲得することである。			
授業の概要 我が国の美術教育の中心的価値である創造性や感性に根ざした教育を中心的価値に据え置き、本授業ではまず、チゼック、ローウェンフェルド、リードといった美術教育の基盤となる理論発展の歴史を学ぶ。また、20 世紀初頭から現代までの主たる教育原理がどのように美術教育に生かされるのかその基盤を美術教育の観点から学ぶ。その上で 21 世紀の最新の美術教育理論研究や最新の学術成果の調査方法に触れ、継続的に美術教育実践者として教育理論を学びつづける姿勢や方法論を学ぶ。			
授業計画 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：美術教育ってなぜ必要なのですか？ 第 3 回：第二次世界大戦の前後の美術教育・子どもの発見と発達段階そして芸術による人間形成へ 第 4 回：経験と教育 1ーデューイなど経験に関わる理論 第 5 回：経験と教育 2ー美術教育から鑑みるデューイなどの経験論 第 6 回：モンティソリーとエリクソン　メルロー＝ポンティ 第 7 回：認知の発達と他者/社会との関わり:メルロー＝ポンティやピアジェ：ヴィゴツキー 第 8 回：他者/社会との関わりー抑圧から対話と民主主義的教育を考える: フレイレ 第 9 回：映像表現と美術教育：ドゥルーズ 第 1 0 回：社会との接点：歴史・分析・批評、美学、制作ーアイズナー 第 1 1 回：多重知性から考える子どもの多様性：ガードナー 第 1 2 回：美術教育研究の最前線 1ーArts Based Research などー 第 1 3 回：美術教育研究の最前線 2　認知科学から考える美術教育 第 1 4 回：最新の美術教育は何をあたえる教育なのか？ディスカッション 第 1 5 回：振り返りとまとめレポート作成			
テキスト 福田 隆眞 ,茂木 一司, 福本 謹一「美術科教育の基礎知識」建帛社			
参考書・参考資料等 Carol Garhart Mooney「Theories of childhood」Redleaf Press			
学生に対する評価 授業時の小レポート 20%　ポートフォリオ評価 60%　最終レポート 20%			

授業科目名： 美術科教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山田 芳明
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 到達目標は次の4点である。 1 中学校及び高等学校美術科がおかれている今日的な状況について把握する 2 中学校及び高等学校美術科の変遷(主に明治期以降)について理解する 3 今日の中学校及び高等学校美術科の内容構成と指導すべき内容について理解する 4 中学校及び高等学校美術科を指導する教員の指導力について捉え、自身の力量形成を考える			
授業の概要 本授業では、中学及び高等学校の美術科がおかれている今日的な状況や中学校の今日の授業実践の課題について捉えることで主免実習の構えを形成する。			
授業計画 第1回：受講生の美術科教育の経験の掘り起こし 第2回：受講生の美術科教育への問題意識の整理 第3回：教科内容の理解（教科書を俯瞰的に捉える） 第4回：教科内容の理解（教科書題材を分類する） 第5回：教科内容の理解（発表により題材を捉える視点の多様性に気付く） 第6回：教科内容の変遷（現行の学習指導要領の美術の内容と構成を知る） 第7回：教科内容の変遷（過去の学習指導要領の美術の内容の特徴を整理する） 第8回：教科内容の変遷（学習指導要領の美術の内容の変遷を理解する） 第9回：現代的教育内容の研究（マンガ・イラストレーション表現について理解する） 第10回：現代的教育内容の研究（マンガ・イラストレーション表現の指導について検討する） 第11回：現代的な教育内容研究（アニメーション表現について理解する） 第12回：現代的な教育内容研究（アニメーション表現の指導について検討する） 第13回：学習指導能力の検討（12回までの総括にもとづく、教師の指導力の洗い出し） 第14回：教科指導能力の検討（美術科教師に必要な指導力の整理） 第15回：教科指導能力の検討（エキスパート教員の言葉に基づく、指導力の再検討） 定期試験 定期試験は実施しない			
テキスト 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説美術編，高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説芸術編 音楽編 美術編，小学校学習指導要領（平成29年告示）解説図画工作編			

参考書・参考資料等

過去の学習指導要領等，必要な資料については，授業内で配布する

学生に対する評価

授業内での小レポート，及び最終レポートの内容をもとに評価する

授業科目名： 美術科授業論		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名：山木朝彦	
						担当形態：単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
授業のテーマ及び到達目標							
中学校「美術」および高等学校「芸術科（美術）」の授業について、その計画立案および実施方法について、表現と鑑賞の二領域の特性と相互の関連を踏まえたうえで、各種の教材の指導方法を学習する。特に、授業を計画する際に求められる教材研究の内容を重視し、各種の教材にかかわる基本的な知識とこれに関わるICTの知識及び実践力を修得する。同時に、学習者の立場からどのように授業を構成するか、ICTの活用を軸に具体的に検討する。 到達目標：さまざまな題材の教育方法について具体的に構想し、授業の計画・手順・評価を自ら決めることができること。その際、受講生自身が授業者となった場合を想定し、ICTを利用した映像資料を用いる授業準備と授業展開を想定した学習指導案を書けるようになること。							
授業の概要							
現代の中学校「美術」および高等学校「芸術科（美術）」の教科の目的について、小・中連携の観点と中・高連携の観点から、カリキュラムの特性を踏まえ、指導の観点から、受講者自身のICT活用能力の育成し、その習得・活用・探究の資質・能力の育成を目指すこと。このため、中学校「美術科」および高等学校「芸術科（美術）」の教科の目的と指導方法について、学習指導要領に基づく題材開発を通じて習熟する。この過程において、インターネットや各種プレゼンター用アプリを利用し、映像プレゼンター装置を利用するICT活用方法を実際に学ぶ授業の流れとなっている。							
授業計画							
第1回：この授業の目的と予定の説明。「教材」とは何か、系統的な教科内容編成の観点から検討するとともに、ICTの活用がどれほど、重要な意味を持つか講義を行う。 第2回：中学校「美術科」および高等学校「芸術科（美術）」における教科内容学の視点から、最先端で活躍するアーティストやデザイナーなどの仕事から中学生に伝えるべきエッセンスを抽出し、学習指導要領との関わりからICTを利用した題材を開発する。（題材開発の視点―1） 第3回：中学校「美術科」および高等学校「芸術科（美術）」における教科内容学の視点から、最先端で活躍するアーティストやデザイナー、工芸家などの仕事から中学生に伝えるべきエッセンスを抽出し、学習指導要領との関わりから、学習者のICT活用を促す題材を開発する。（題材開発の視点―2） 第4回：中学校「美術科」および高等学校「芸術科（美術）」における教科内容学の視点から、最先端で活躍するアーティストやデザイナーなどの仕事から中学生に伝えるべきエッセンスを抽出し、学習指							

導要領との関わりから、学習者自身がICT活用を前提とする題材を開発する。(題材開発の視点—3)

第5回：現代の美術教育の授業について、現行の中学校の教科書および高等学校「美術I」「美術II」「美術III」の教科書を学ぶ。その際、ICTに関わる内容を重視する。(題材開発の視点—4)

第6回：現代の美術教育の授業について、現行の中学校の教科書および高等学校「美術I」「美術II」「美術III」の教科書を学ぶ。また、ひとつの題材を深く研究するために、指導の目的・内容をおさえつつ、ICT利用を前提とする独自の題材案を提案する。(題材開発の視点—5)

第7回：中学校「美術科」および高等学校「芸術科(美術)」における教科内容学の視点から、中学生や高校生に伝えるべきエッセンスを抽出し、学習指導要領を踏まえ授業を構想する。その際、ICTを利用するどのような課題を学習者に与えるべきか考えさせる。(指導計画・授業設計1)

第8回：中学校「美術科」および高等学校「芸術科(美術)」における教科内容学の視点から、ICTを活用するアーティストやデザイナーなどの仕事を紹介し、そこから中学生や高校生に伝えるべきエッセンスを抽出し、授業を構想する。(指導計画・授業設計2)

第9回：現代の美術教育の授業について、実践現場の教師が開発した題材について教育専門雑誌から学習する。その際、ICTの基礎技能を生徒に学ばせる題材を中心とする。(題材開発の視点—6)

第10回：現代の美術教育の授業について、実践現場の教師が開発した題材について教育専門雑誌から学習する。その際、ICTの応用技能を生徒に学ばせる題材を中心とする。(題材開発の視点—7)

第11回：現代の美術教育の授業改善について、指導計画の作成手順と評価の観点を学ぶ。併せて、授業におけるICTの活用とルーブリックの考え方を学ぶ。(指導計画・授業設計3)

第12回：中学校「美術科」および高等学校「芸術科(美術)」における授業を想定し、模擬授業を実施する。模擬授業実施に当たってはICTの活用を前提とする。(模擬授業—1)

第13回：中学校「美術科」および高等学校「芸術科(美術)」における授業を想定し、模擬授業を実施する。模擬授業実施に当たってはICTの活用を前提とする。(模擬授業—2)

第14回：現代の美術教育の授業改善について、指導計画の作成手順と評価の観点を学ぶ。併せて、授業の評価におけるルーブリック作成の際に、生徒のICT基礎能力をどのように叙述すべきかを学ぶ。

第15回：ICT活用の鑑賞領域について、総括的に学ぶ

定期試験 ICTの習熟がいかに重要かという観点を盛り込んだ試験を行う。

テキスト 文部科学省著作物「中学校学習指導要領(平成29年告知)解説」

文部科学省著作物「高等学校学習指導要領(平成30年告知)解説」(「芸術(音楽 美術 工芸 書道)編 音楽編 美術編」)

参考書・参考資料等

稲垣 忠ほか編著『ICT活用の理論と実践：DX時代の教師をめざして』(北大路書房)

学生に対する評価

発表の能力を重視し、ICTを利用した発表者としてのパフォーマンスの成果と、授業に関するレポートを総合点の50%とし、試験の結果を50%とする。これを総合し、成績評価を行う。

授業科目名： 美術科教材論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山田 芳明
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 教育において教材は不可欠な要素である。とりわけ図画工作科や美術科においては、教科書教材は一つの参考 として位置づけられており、地域の特性や児童・生徒の実態に即して独自に構成することが求められている。本授業の到達目標は以下の4点である。 ・ 図画工作科、美術科における教材を位置づけについて整理し理解する ・ キット教材の功罪について理解すると共に、それを適切に活用する視点を身につける。 ・ ICT機器を活用した教材の指導のあり方について理解する。 ・ 独自教材の開発と模擬授業を通して、教材開発の視点を理解するとともに、教育実践力を高める。			
授業の概要 本授業では、学校教育現場で実際に実践されている ICT 機器を活用した教材を含む複数の事例を参照することを通して教材の意味を理解するとともに、美術教育の視野を広げ、新たな美術教材分野の視点を見だし、個々が探求し、模擬授業を行うことを通して教育実践力の素地を養う。			
授業計画 第1回：実習授業の省察（教材の意義や意味についての再確認） 第2回：教材の検討（これまでに経験してきた教材の分類と整理） 第3回：キット教材の探究（デザイン・工芸教材の制作を通じた題材内容の検討） 第4回：キット教材の探究（デザイン・工芸教材の制作を通じた学習指導の検討） 第5回：キット教材の探究（デザイン・工芸教材の長所を生かす授業改善の視点） 第6回：キット教材の探究（絵画・彫刻教材の制作を通じた題材内容の検討） 第7回：キット教材の探究（絵画・彫刻教材の制作を通じた学習指導の検討） 第8回：キット教材の探究（絵画・彫刻教材の長所を生かす授業改善の視点） 第9回：ICT機器を活用した教材の探究（アニメーションソフトの操作に慣れる） 第10回：ICT機器を活用した教材の探究（アニメーションソフトを使用して作品をつくる） 第11回：ICT機器を活用した教材の探究（アニメーション表現の可能性について検討する） 第12回：教材の開発（これまでの学習に基づく独自教材の開発） 第13回：教材の開発（教材内容の検討と模擬授業の準備）			

第14回：教材の開発（模擬授業と事後考察）

第15回：総括（美術科における教材の展望）

定期試験 定期試験は行わない。

テキスト

学習指導要領解説図画工作編，学習指導要領解説美術編

参考書・参考資料等

必要な資料，教材キット等については授業内で配布する

学生に対する評価

課題への取り組み，レポートの内容，提出作品などから総合的に評価する。

授業科目名： 美術科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐原 理
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中学校および高等学校学習指導要領美術を中心に美術教育の役割について理解し授業担当が可能な知識を獲得する。			
授業の概要 この授業は美術教員の免許取得のための科目である。学習指導要領を中心に中学校美術科および高等学校美術科教育についての知識を深め、中学校美術科および高等学校美術科の役割を理解し授業を組み立てる事が出来るようになるように講義を進める。			
授業計画 第1回 美術教育はなぜ必要か？美術教員の役割と進路 第2回 学習指導要領が出来るまで－OECD2030プロジェクトと生きる力 第3回 学習指導要領総則編と美術教育のつながり 第4回 学習指導要領美術編と解説を理解しよう 第5回 美術教育の目標と表現・鑑賞 第6回 感性と情操について 第7回 教科内容学領域の取り扱い－美術の教育と美術による教育 第8回 獲得すべき能力と学習モデル 第9回 発達段階と指導方法 第10回 クラスルームマネジメントの方法 第11回 美術教育と言語活動（ICTの活用） 第12回 美術教育と身体 第13回 各社の教科書を参考に指導案を作成しよう 第14回 指導案の作成と評価方法 第15回 指導案の作成と模擬授業			
テキスト 中学校学習指導要領解説 美術編(最新版)，高等学校学習指導要領解説 美術編(最新版)			

参考書・参考資料等
日本文教出版、開隆堂、光村図書 各社の中学校および高等学校向け各学年教科書
学生に対する評価
授業課題及びレポート（ポートフォリオ）による評価

授業科目名： 美術科教育特論		教員の免許状取得のための (中)必修科目／(高)選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：山本朝彦
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
授業のテーマは、造形教育の基礎・基本について理論的観点から深く学ぶと共に、日々の教育実践に必要な教材理解の方法を教材開発という課題に取り組むことによって体得することにある。到達目標は教材内容の研究を自ら主体的に行なう力量を身につけること、そして、教材に関わる教育内容について、鑑賞領域におけるICTを活用した題材づくりができるようにすることである。特にICTを核とした現代の学習内容に習熟することにより、生徒のICT活用の動機を高め、その基礎技能修得を促すことが目標である。				
授業の概要				
鑑賞教育の目的と方法のひろがり等の基本的事項を説明することができるように、鑑賞対象となる作品について、美術史上の位置づけ、その作品をめぐる主要な批評、作者と作品のかかわりなど、作品研究を行い、それらをもとに、自分の見方を持つことができる。その際、図書館だけではなく、インターネット上の情報を吟味し、役立てる方法を学ぶこととする。授業の構想・実施のシミュレーションにおいては、中学校の生徒の立場から、作品の魅力が伝わるように、最新のICTに関する基礎知識を活用する方法を学ぶ。パワーポイントとビジュアルプレゼンターの特性を理解し、その特性に合致した図像の選択や文の精選をすることができる。提示用のパワーポイントを操作しながら、授業を行うための必要条件を考察し、実際に模擬授業ができるようにする。学習者どうし協力し合い、パワーポイントの内容の質的向上を図るとともに、中学校の生徒がパソコンとパワーポイントを利用したプレゼンができるよう、指導する技能を学ぶことにする。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション（ICTの知識を深める授業の特性と評価の方法などについて）				
第2回：造形教育にかかわる教育課程の概説とICTを活用した教育の現代的意義について(指導計画・授業設計1)				
第3回：表現領域と鑑賞領域の関係性。特にICT活用の題材について検討を行う。（小学校高学年と中学校美術を関連づけて扱う）(指導計画・授業設計2)				
第4回：鑑賞の題材開発の基礎についてICTとの関わりについて論じる。(指導計画・授業設計3)				

第5回：インターネットやパワーポイント、さらにCGを利用した鑑賞の新しい流れについて(指導計画・授業設計4)

第6回：図書館だけではなく、インターネットのアーカイブ（たとえばCiNii等）を利用した作品研究・作家研究・学習者の発達に関する基礎知識の修得(題材開発の視点―1)

第7回：ICTを活用しているかどうか、受講生各々の探究課題についての検討(題材開発の視点―2)

第8回：ICT活用を前提とする鑑賞の題材開発の目的と方法(指導計画・授業設計5)

第9回：ICT活用を前提とする鑑賞の題材開発の具体的課題について（導入・展開・まとめなど授業の流れにおけるインターネットの活用，パソコンベースのパワーポイント等の活用，ビジュアルプレゼンターの操作の習得，動画・静止画像の利用時における著作権遵守など）(題材開発の視点―2)

第10回：ICT全般，とりわけ，インターネットとパワーポイント等プレゼン用アプリケーションを利用した題材開発および提示用コンテンツの作成(1) (題材開発の視点―3)

第11回：ICT全般，とりわけ，インターネットとパワーポイント等プレゼン用アプリケーションを利用した題材開発および提示用コンテンツの作成(2) (題材開発の視点―4)

第12回：ICT全般，とりわけ，インターネットとパワーポイント等プレゼン用アプリケーションを利用した題材開発および提示用コンテンツの作成(3) (題材開発の視点―5)

第13回：ICT全般，とりわけ，インターネットとパワーポイント等プレゼン用アプリケーションを利用した題材開発および提示用コンテンツの作成(4) (題材開発の視点―6)

第14回：模擬授業形態のプレゼンテーションと改善のための提示用コンテンツに関するICT活用の観点からの批判的検討

第15回：中学校へのICT教育の浸透を促すための諸方策の一環として，中学校生徒に鑑賞領域でのプレゼンを行わせるための指導はどうあればよいか

定期試験: ICT教育の浸透を促す観点から中学校美術の題材についての試験を行う。

テキスト

文部科学省著作物「中学校学習指導要領（平成29年告知）解説」

参考書・参考資料等

稲垣 忠ほか編著『ICT活用の理論と実践：DX時代の教師をめざして』（北大路書房）

学生に対する評価

発表の能力を重視し，ICTを利用したプレゼンターとしてのパフォーマンスと，これに関わり作成したレポートを総合点の50%とし，試験の結果を50%とする。これを総合し，成績評価を行う。

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担 当 教 員 名：
美術科教材開発 実践研究	選択科目	2 単位	佐原 理 山田 芳明 吉川 暢子
			担当形態： 複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中学校および高等学校学習指導要領美術を中心に美術教育の役割について理解し教材開発が可能な知識および技術を獲得する。			
授業の概要 我が国の美術教育の中心的価値である創造性や感性に根ざした教育をどのような観点から構築可能なのか、美術科における教材開発実践の視点から経験的知識を体得したい。そこで、実際の教育現場ですぐに授業設計が可能となるための教材開発の知識を深め、教育現場を模して指導案を組み立て、模擬授業ができるように以下の事業計画に沿って美術教育の実践研究を行う。			
授業計画 第1回 美術教育はなぜ必要か？美術教育の現場から 第2回 教材開発の専門性と実際―実際の教育現場で求められる教材開発 第3回 教材開発の専門性と実際―学習指導要領から見る教材開発 第4回 教材開発の専門性と実際―実例にふれる教材開発アートの現場から 1 実例紹介 第5回 教材開発の専門性と実際―実例にふれる教材開発アートの現場から 2 ワークショップ 第6回 教材開発をしてみよう 1 (ICT サポート：遠隔でアイデアをまとめる方法論) 第7回 教材開発をしてみよう 2（教育効果に合わせた教材開発） 第8回 教材開発内容の発表とフィードバック―まとめ 第9回 開発教材による授業設計をする 1（具体的な授業運営を考える） 第10回 開発教材による授業設計をする 2（必要な素材や教室づくり） 第11回 開発教材による模擬授業準備（授業運用をサポートする I C T の活用） 第12回 模擬授業発表 1（香川大学学生発表） 第13回 模擬授業発表 2（鳴門教育大学発表） 第14回 模擬授業発表 3（徳島大学発表） 第15回 模擬授業発表と振り返り			
テキスト 文部科学省中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説美術編 文部科学省高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説美術編			
参考書・参考資料等 福田 隆眞，茂木 一司，福本 謹一「美術科教育の基礎知識」建帛社 山崎 正明「中学校 美術の授業がもっとうまくなる 50 の技」明治図書出版 新聞伸也 他「ルーブリックで変わる美術鑑賞」三元社 神林 恒道，ふじえ みつる「美術教育ハンドブック」三元社			
学生に対する評価 授業毎小レポート（20%）、指導案作成課題（40%），最終レポート（40%）			

授業科目名： 家庭経営学概論（家族 関係学及び家庭経済 学を含む。）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 坂本 有芳
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 家族関係学および家庭経済学の基礎的知識を習得することにより、家族論および消費者経済学で深める専門的知識への導入とする。この授業を受講することにより、家族と家庭生活、消費生活について、家庭科の授業を行うのに必要な基礎的知識を習得することができる。			
授業の概要 ライフコースの変化と特徴、ライフイベント、世帯構造の変化について知識を習得するとともに自らのライフコースを考える。現在の就業環境や社会保障制度を考慮に入れながら、ライフステージに応じた家計管理やリスクマネジメントなど、人生100年時代の生活経済計画に必要な知識を習得する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：ライフサイクル 第3回：ファミリーライフサイクル 第4回：ライフコース 第5回：ライフイベント 第6回：家族危機と対処 第7回：家庭生活と家族関係 第8回：世帯と家計・家計の収支項目 第9回：家計管理、家計簿記帳 第10回：世帯主の就業形態と家計 第11回：家計をめぐる法則 第12回：ライフステージと家計 第13回：貯蓄と負債、資産形成 第14回：リスクマネジメントと保険 第15回：購入と買い物の社会的意味、授業の総括			
定期試験			
テキスト 必要に応じて資料を配付する。			
参考書・参考資料等 岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族 第3版』有斐閣、2013 重川 純子『生活経済学』（放送大学教材）NHK出版、2020			
学生に対する評価 ①課題レポートと②最終日の試験の両者を総合して行う。			

授業科目名： 消費生活論		教員の免許状取得のための 選択科目		単位数： 2単位		担当教員名： 坂本 有芳	
						担当形態： 単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）					
施行規則に定める		教科に関する専門的事項					
科目区分又は事項等		・家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）					
授業のテーマ及び到達目標							
現代の消費生活を理解し家庭科の授業を行う上で必要な知識を学ぶ。消費生活に関する家庭科の授業を行うのに必要な専門礎的知識を習得する。							
授業の概要							
この授業は毎回の予習と複数回の発表，授業内での課題など，アクティブラーニング形式で進める。特にLTD（Learning Though Discussion）を中心とする。市場経済の特徴，消費者問題，消費者契約，消費者信用，安全安心の確保，生活設計，情報科社会など，現代のなど，							
授業計画							
第1回：オリエンテーション，発表分担決め，消費者教育とは							
第2回：大量消費社会のひずみーファッション産業の現状							
第3回：経済社会の発展と消費者問題の発生							
第4回：消費者教育の歴史と体系							
第5回：消費者政策の展開							
第6回：国・地方の消費者行政							
第7回：商品の安全性							
第8回：生活設計							
第9回：消費者信用							
第10回：情報化社会と消費者							
第11回：幼児期・小学生期の消費者教育							
第12回：中学生期・高校生期の消費者教育							
第13回：成人期（若者・成人一般・高齢者）の消費者教育							
第14回：消費者市民社会の構築に向けて							
第15回：大量消費社会のゆくえー食品ロス問題を考える							
テキスト 神山 久美・中村 年春・細川 幸一 編 2016『第2版 新しい消費者教育 これからの消費生活を考える』慶應義塾大学出版会							
参考書・参考資料等 必要に応じて資料を配付する。							
学生に対する評価 毎回実施する事前課題の提出状況（30％），授業内での発言（30％），担当部分の発表内容（40％）により，本授業科目の到達目標への達成度を総合的に判断する。							

授業科目名： 家庭経営学演習		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 坂本 有芳
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
家庭経営に関わる諸問題とらえる統計データによって、現代日本における課題を客観的に把握する。 人々の意識や行動を数値として測定する方法、客観的証拠を用いた論述を行う基礎を身につける。				
授業の概要				
環境問題、消費者問題に関するさまざまな統計データを検索し、国内での時系列的变化や、諸外国との相違を調べ、現代日本の課題について各自の見解をまとめ、レポートを作成する。家庭経営に関わるテーマを各自で1つ設定し、仮説を立てアンケート調査票を作成する。アンケートで収集したデータを分析し、プレゼンテーション資料にまとめ、研究発表する。				
授業計画				
第1回：授業の概要、持続可能な社会に向けた諸課題				
第2回：講義と討論：ごみ排出量と資源化量、食品ロス、持続可能なファッション、エシカル消費など				
第3回：テーマの設定と統計データ検索の方法				
第4回：データ整理とグラフ作成				
第5回：グラフを用いたレポートの作成				
第6回：文献検索と整理				
第7回：論点整理：持続可能な社会に向け、いかに消費活動を改めるべきか				
第8回：主要概念の洗い出しと概念整理				
第9回：概念間の関連検討と概念の測定方法				
第10回：質問紙調査票の作成				
第11回：調査票の配布と回収				
第12回：検票とデータ入力				
第13回：データ集計とグラフ作成				
第14回：プレゼンテーション資料の作成				
第15回：調査結果と考察のプレゼンテーション				
テキスト 必要に応じて資料を配付する。				
参考書・参考資料等 『消費者白書』『環境・循環型社会白書』各年版、このほか授業時に紹介				
学生に対する評価 授業内での課題実施状況（60％），課題Ⅰの成績（15％），課題Ⅱの成績（25％）により、本授業科目の到達目標への達成度を総合的に判断する。				

授業科目名： 生活課題の調査と分析	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：坂本有芳 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ (授業のテーマ) 持続可能な社会を目指したライフスタイルに対する理解を深め、生活の中から問題を見い出して課題を設定しそれを解決する方法を検討する。 (授業の到達目標) 世の中に大量にあふれる生活情報の中から家庭経営に関連した適切な情報を収集する方法を学ぶとともに、 I C Tや統計資料等を活用して整理できる力を身につける。			
授業の概要 オンデマンドによる講義と課題による演習を行う。各自の関心に応じて持続可能な社会づくりにかかわる家族、衣食住、消費の諸課題よりテーマを定めて統計データを検索し、時系列的变化や国際比較などを行い、現代日本の課題について各自の見解をレポートにまとめる。			
授業計画 第1回：生活課題に関わる公的統計とその利用、持続可能な社会づくりにかかわるテーマ設定 第2回：表計算ソフトウェアを利用した統計資料の加工と整理 第3回：収集したデータに応じたグラフ作成 第4回：様々な質的調査、量的調査の特徴 第5回：標本抽出法、良質な標本の判断基準 第6回：概念測定、変数の型と測定誤差 第7回：文書作成アプリケーションソフトを活用したレポート作成法 第8回：生活課題レポートの作成（レポート提出）			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 『消費者白書』『環境・循環型社会白書』各年版			
学生に対する評価 出席および授業内での課題実施状況（60%）、レポート課題の成績（40%）により、本授業科目の到達目標への達成度を総合的に判断する。			

授業科目名： 家庭経営学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：森田美佐 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 （授業のテーマ）本授業は、個人と家族成員の誰もが、かれらの福利（well-being）の獲得を通して、より自分らしく生きること（クオリティ・オブ・ライフの向上）を目指す。 （授業の到達目標）受講生は、生活者としての主体形成と、受講生が家庭科の授業を行う際に必要な学問的背景と授業展開の際に重視すべき知識を修得する。			
授業の概要 本授業では、受講生は中学・高校の家庭科免許のために必要な理論と実践をふまえつつ、家族・家庭の機能と、個人・家族および家庭生活を取り巻く社会・経済・政策等の現状と課題を学ぶ。またそれらの問題をジェンダー平等の視点から捉え、受講生の生活をめぐる諸問題への対応を学問として学びつつ、持続可能な生活設計に役立つ力を身につける。			
授業計画 第1回：オリエンテーション （授業の目標、テーマ、概要、評価、注意事項、学習指導要領における本授業の位置付け） 第2回：今日の生活経営 （今日の生活における多様性・複雑性とその課題を明確にする） 第3回：生活経営に求められる視点 （学問としての生活環境、生活資源、生活価値、生活関係とそれらとの関連性を理解する） 第4回：生活経営の研究 （先行研究を土台として、ライフ（生命・暮らし・人生）の視点で持続可能な生活を考える） 第5回：生活を取りまく社会環境－生活の組織と地域－ （地域や仲間・団体などの互助・共助による自立と共生の可能性を考える） 第6回：生活時間を考える （生活時間における知識の獲得と生活時間に潜むジェンダー問題を明らかにする） 第7回：家計を考える （経済的自立に向けた知識の獲得と家計に潜むジェンダー問題を明らかにする） 第8回：ひと・ものとの関わり－生活のための「資源」－ （現代社会における、モノやサービスとの付き合い方を考える） 第9回：生活経営における労働問題 （人間らしい働き方(Decent work)とワーク・ライフ・バランスの課題を明らかにする） 第10回：生活の社会化・家事労働 （家庭の機能の理解と生活の多様化における家事労働の課題を明らかにする） 第11回：生活と福祉 （介護問題を含めて、今後の日本の社会保障のあり方を生活経営の側から考える） 第12回：持続可能な生活設計を考える （個人・家族の生活の豊かさが担保・維持される社会のあり方を、他国の事例も含めて考える） 第13回：プレゼンテーション（A班） （生活の持続可能性を保障する社会に向けた受講生の提案と質疑応答） 第14回：プレゼンテーション（B班） （生活の持続可能性を保障する生活者の役割と責任に関する受講生の提案と質疑応答） 第15回：本講義のまとめ			

(前回、前々回の班における受講生の発表を踏まえての、全員の議論と総括) 定期試験は実施しない
テキスト 日本家政学会生活経営学部会編，2020，『持続可能な社会をつくる生活経営学』朝倉書店， ISBN 978-4-254-60025-4
参考書・参考資料等 日本家族社会学会編，2018，『現代家族を読み解く12章』，丸善出版 ISBN 978-4-621-30343-6
学生に対する評価 総合的に評価（①課題（50％），③レポート内容（50％））

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：福井典代
被服学概論（被服製作実習を含む。）	必修科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・被服学（被服製作実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
授業のテーマ：衣服の柄と構成を学習する。			
到達目標：1. プリント柄の構成を理解する。2. 手縫いとミシン縫いの基礎を習得する。			
授業の概要			
講義の前半では、衣服の模様に着目してプリント柄の構成について学習する。後半では、教材として活用されているハーフパンツを製作することにより、衣服の構成を理解する。			
授業計画			
第1回：衣服の形態と色，テキスタイルデザインの種類と単位図形			
第2回：プリント柄の単位図形の作成1（四方送り，付加方式）			
第3回：プリント柄の単位図形の作成2（四方送り，四つ割り方式）			
第4回：プリント柄の単位図形の作成3（ハーフステップ送り）			
第5回：プリント柄の色付け，アイロンプリント			
第6回：被服製作実習1（手縫いの基礎）			
第7回：被服製作実習2（ハーフパンツの型紙作成）			
第8回：被服製作実習3（布の地直し，裁断）			
第9回：被服製作実習4（しるしつけ）			
第10回：被服製作実習5（ミシン縫いの基礎）			
第11回：被服製作実習6（縫い代の始末）			
第12回：被服製作実習7（ポケットつけ）			
第13回：被服製作実習8（脇・股下縫い）			
第14回：被服製作実習9（裾の始末，股上縫い）			
第15回：被服製作実習10（ウエストの始末，ゴム通し）			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
中学校技術・家庭（家庭分野）の教科書			
参考書・参考資料等			
必要に応じて資料を配布する。			
学生に対する評価			
プリント柄（30％），被服製作のレポート（30％），ハーフパンツの製作物（40％）			

授業科目名： 衣生活学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：福井典代 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・被服学（被服製作実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ：衣生活に関する知識を習得する。 到達目標：被服材料，被服管理に関する基礎的な知識を習得する。			
授業の概要 着用目的に合った被服を適切に選択，管理して，処分するまでの資源や環境に配慮した衣生活の工夫について理解する。			
授業計画 第1回：繊維の種類・性質，高機能性繊維 第2回：糸の撚り，太さ 第3回：織物組織（平織，斜文織，朱子織） 第4回：編物組織（たて編み，よこ編み） 第5回：洗濯の対象となる汚れの種類，洗濯用水 第6回：市販洗剤の種類 第7回：界面活性剤の種類と特徴 第8回：洗浄のメカニズム 第9回：家庭洗濯（洗濯機の種類，洗濯工程） 第10回：使用している洗濯機についての個人発表 第11回：商業洗濯（ドライクリーニング，ウェットクリーニング，ランドリー） 第12回：漂白，増白，しみ抜き 第13回：衣服の構成 第14回：和服の着装 第15回：衣生活と環境問題 定期試験			
テキスト 必要に応じて資料を配布する。			
参考書・参考資料等 高等学校「家庭総合」の教科書，「教科内容学に基づく小学校教科専門科目テキスト 家庭」			
学生に対する評価 期末試験（40％），個人発表（30％），レポート（30％）			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：福井典代
被服学実験	選択科目	1 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める	教科に関する専門的事項		
科目区分又は事項等	・被服学（被服製作実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
授業のテーマ：被服材料と被服整理に関する実験内容を理解，実験技能を習得する。			
到達目標：被服材料と被服整理に関する基礎的な実験を理解する。			
授業の概要			
自然科学的分野の理解を深めるため，被服の材料および整理に関する実験を行う。簡易測定装置を用いて実験を行い，実験手法を学校現場へ活用できる能力を養う。			
授業計画			
第1回：実験器具の名称と使用方法			
第2回：天然植物染料による各種繊維の染色			
第3回：布の通気性測定			
第4回：布の吸水速度の測定			
第5回：布の防しわ性の測定			
第6回：布の保温性測定			
第7回：洗濯用水の硬度の測定			
第8回：界面活性剤の臨界ミセル形成濃度の測定			
定期試験は行わない。			
テキスト			
必要に応じて資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
「身近な素材を活用した衣生活の実験・実習」教育図書			
学生に対する評価			
毎時間提出する実験レポート（80％），実験に対する取り組み姿勢（20％）			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：福井典代
被服構成実習	選択科目	1 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める	教科に関する専門的事項		
科目区分又は事項等	・被服学（被服製作実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
授業のテーマ：快適な衣生活を営むために必要な縫製に関する基礎的な技術を習得する。			
到達目標：被服の構成要素を理解し、縫製に関する基礎的な技術を習得する。			
授業の概要			
中学校での被服製作に活用できる基礎的な縫製工程と技術を身に付ける。			
授業計画			
第1回：被服の構成，型紙作りと補正			
第2回：布の地直し，裁断，しるしつけ			
第3回：仮縫い，試着，補正			
第4回：縫い代の始末，接着芯の裁断・貼り付け			
第5回：本縫い1（肩，衿ぐりの始末）			
第6回：本縫い2（袖つけ）			
第7回：本縫い3（脇縫い，裾の始末）			
第8回：本縫い4（ボタンホール，ボタンつけ）			
定期試験は行わない。			
テキスト			
必要に応じて資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
高等学校「家庭総合」の教科書			
学生に対する評価			
製作物（50％），製作レポート（50％）			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：福井典代
テキスタイル基礎科学	選択科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める	教科に関する専門的事項		
科目区分又は事項等	・被服学（被服製作実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
(授業のテーマ)			
本講義は、被服材料・整理に関する基礎的な知識を習得し被服構成を理解することである。			
(授業の到達目標)			
1. 被服材料に関する基礎的な知識を習得する。			
2. 被服整理に関する基礎的な知識を習得する。			
3. 手縫いの基礎、ミシン縫いの基礎を習得する。			
授業の概要			
繊維から糸、糸から織物・編物にいたる各段階の組織・構造が、衣服の外観、ドレープ性、フィット性、取り扱いやすさなどの消費性能にどのように影響するかについて理解する。さらに洗濯に関する基礎的な知識を習得するとともに、被服製作実習を行う。			
授業計画			
第1回：繊維の種類と特徴			
第2回：糸の種類と特徴			
第3回：織物・編物の種類と特徴			
第4回：洗剤の種類と特徴			
第5回：家庭洗濯（洗濯機の種類、合理的な洗濯方法）			
第6回：商業洗濯（ドライクリーニング、ウェットクリーニング、ランドリー）			
第7回：被服製作実習（手縫いの基礎）			
第8回：被服製作実習（型紙作成）			
第9回：被服製作実習（布の地直し、裁断）			
第10回：被服製作実習（しるしつけ）			
第11回：被服製作実習（ミシン縫いの基礎）			
第12回：被服製作実習（縫い代の始末）			
第13回：被服構成実習（部分縫い）			
第14回：被服構成実習（本縫い）			
第15回：試験と着装観察			
テキスト			
特になし			

参考書・参考資料等

必要に応じてプリントを配布する。

学生に対する評価

小レポート，製作物，製作レポート

授業科目名： 食物学概論（栄養学、 食品学及び調理実習 を含む。）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西川和孝
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 教育実践の基礎として、食物関連の授業展開に必要な力を養う。 初等および中等教員養成に必須の基本的な食物学全般にわたる内容を含み、食生活がいかに身 体の成長、活動、健康維持に重要であるかを理解する。 本授業の到達目標は、講義と簡単な調理実習を通して、栄養学、食品学および調理学の基礎を 理解し実践できることである。			
授業の概要 ・現代の食生活の課題をまとめる。 ・五大栄養素の基本的役割と食品との関係をまとめる。 ・食品群の分け方と根拠をおおよその数値とともに理解する。 ・調理実習を通して、小学校・中学校の調理実習の内容に即した調理の基本操作、基本技術、 献立構成の方法、食卓作法を身につける。			
授業計画 第1回：授業概説、今後の予定等 第2回：食生活の変遷、食生活史 第3回：学校教育における食教育 第4回：食品と食生活① 第5回：食品と食生活② 第6回：栄養と食生活① 第7回：栄養と食生活② 第8回：調理と食生活① 第9回：調理と食生活② 第10回：実習にあたっての基礎知識 第11回：調理実習① 第12回：調理実習② 第13回：調理実習③ 第14回：調理実習室の掃除			

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

授業プリントを配付する。

参考書・参考資料等

食物学概論（藤原葉子編著、光生館）

学生に対する評価

授業時の参加姿勢、レポート、試験等により総合的に評価する。

授業科目名： 食品栄養学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西川和孝
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
教育実践力の基礎として、食物関連の授業展開に必要な力を培う。 基礎的な事項としては、食物学の基礎、各栄養素の消化・吸収過程と吸収後の代謝過程及びエネルギーの産生機構等、栄養生化学的側面から学ぶ。また、応用面としては、身体の各発達段階に見合った食事摂取基準と栄養状態の評価等、公衆衛生学的側面から学ぶことにより、健全な身体の発達と健康維持・増進につながる適切な食生活を考究する能力を養う（調理学の内容も一部含む）。本授業の到達目標は、食品学及び栄養学の基礎的・応用的な事項について理解し説明できることである。			
授業の概要			
・食品学及び栄養学（特に五大栄養素）について理解し、説明ができる。 ・配布したプリントを完成させ、まとめる。 ・中学校・高等学校家庭科の授業を展開していくために必要な食品学及び栄養学の基礎的知識を習得する。			
授業計画			
第1回：栄養と食生活、生活習慣の現状と課題等			
第2回：食事摂取基準①			
第3回：食事摂取基準②			
第4回：食事摂取基準③			
第5回：ライフステージと栄養①			
第6回：ライフステージと栄養②			
第7回：ライフステージと栄養③			
第8回：前半のまとめ			
第9回：炭水化物の機能と代謝			
第10回：脂質の機能と代謝			
第11回：たんぱく質の機能と代謝 その1			
第12回：たんぱく質の機能と代謝 その2			
第13回：ビタミン、無機質の機能と代謝			

第14回：代謝の統合

第15回：後半のまとめ

定期試験

テキスト

授業プリントを配付する。

参考書・参考資料等

食品成分表（香川芳子監修、女子栄養大出版部）、日本人の食事摂取基準（厚生労働省）

学生に対する評価

授業時の参加姿勢、レポート、試験等により総合的に評価する。

授業科目名： 調理実習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 西川和孝
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 教育実践力の基礎として、食物関連の授業展開に必要な力を養う。 調理に関する基礎技術の習得が主目的である。調理の技術的な面だけでなく、調理操作やその過程を科学的に理解し、合理的に技術・操作を修得できるように努める。また、実習を通して、食生活全般についての基本的な考え方が身につき、実践できる能力を高めることができるよう配慮したい。本授業の到達目標は、調理に関する基礎的技術・知識を習得し、実践できることである。			
授業の概要 ・調理学について理解し、説明ができる。 ・実習プリントをもとに班員と協力して調理ができる。 ・中学校・高等学校家庭科の授業（調理実習）を展開していくために必要な知識及び技術を習得する。			
授業計画 第1回：調理の基礎技術と基礎知識、 包丁の手入れ、 班分け、掃除等 第2回：調理実習① 第3回：調理実習② 第4回：調理実習③ 第5回：調理実習④ 第6回：食品加工① 第7回：食品加工② 第8回：実習の復習（まとめ）、期末試験			
テキスト 実習プリントを配付する。			
参考書・参考資料等 調理学実習 基礎から応用（高橋敦子他著、女子栄養大学出版部）			

学生に対する評価

授業時の参加姿勢、レポート、試験等により総合的に評価する。

授業科目名： 食物学実験	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 西川和孝
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 教育実践力の基礎として、食物関連の授業展開を養う。 食生活を科学的に捉えるための基本的な実験科目であり、中学校・高等学校の教材としても利用できる程度のものを扱う。実験内容は、栄養素の定性・定量分析、栄養素の消化吸収実験、食品加工および調理科学に関する内容を含んでいる。 到達目標として、食物分野の専門的な知識を得て、学校現場で役立つ家庭科食教材を自ら開発できる基礎的な能力を身につける。			
授業の概要 ・食品に含まれる栄養素の抽出、定性・定量に関する実験に取り組む。 ・各種食品の食品学的特性、調理性、加工性に関する実験に取り組む。 ・食物領域の実験に関する基礎的な実験器具の取扱い、実験操作、測定方法を習得する。 ・中学校・高等学校の家庭科における食物に関する実験・実習手法を習得する。			
授業計画 第1回：炭水化物の実験① 第2回：炭水化物の実験② 第3回：脂質の実験① 第4回：脂質の実験② 第5回：たんぱく質の実験① 第6回：たんぱく質の実験② 第7回：生活活動調査 第8回：官能検査と統計処理、後片付け			
テキスト 実験プリントを配付する。			
参考書・参考資料等 「食品分析の実際」真部孝明著、幸書房			
学生に対する評価			

授業時の参加姿勢、レポート、試験等により総合的に評価する。

授業科目名： 食物学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：西川和孝 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・食物学（栄養学，食品学及び調理実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ (授業のテーマ) 教育実践の基礎として、食物学の授業展開に必要な知識を習得する。 (授業の到達目標) ①食物学の基礎知識について理解できるようになる、②食生活の課題を認識し、学校現場で 授業展開できる能力を身に付けるようになる、③ICT 機器に関心を持ち、食教育に活用できる ようになることが、授業の到達目標である。			
授業の概要 ・現代の食生活の課題をまとめる。 ・食事の役割を理解するとともに、食物に含まれる五大栄養素の基本的役割をまとめる。 ・学校教育における食教育、地域の食文化について授業を行う。			
授業計画 第1回：授業概説、現代の食生活の課題、食事の役割等 第2回：食品、栄養と食生活（炭水化物について） 第3回：食品、栄養と食生活（脂質について） 第4回：食品、栄養と食生活（たんぱく質について） 第5回：食品、栄養と食生活（ビタミンについて） 第6回：食品、栄養と食生活（無機質、水について） 第7回：学校教育における食教育、地域の食文化等 第8回：まとめ			
テキスト 授業中に適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等 精選栄養学（五十嵐一脩、藤原葉子著、実教出版） 食品成分表（香川明夫監修、女子栄養大学出版部）			
学生に対する評価 毎回の授業の最後に提出する課題			

授業科目名： 食物学総論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 畦 五月 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 (授業のテーマ) 栄養の情報は氾濫混し、フェーク情報も入り混じっている状態ともいえる。そこで、五大栄養素の知識を理解し身につけた上で、誤った栄養学の知識に振り回されていないか、偏った食生活になっていないかなどの観点から食生活の見直しを行い、その解決方法を提示・実践できるようにする。 (授業の到達目標) ・五大栄養素の働きについて説明し、記述できる。 ・食品の組み合わせと栄養バランスを説明し、食生活の改善点を見つけることができる。 ・偏った栄養摂取による疾病について説明し、その予防策を記述することができる。 ・自らの食生活の課題を見つけ、解決方法を探り、実践することができる。			
授業の概要 栄養素の基本的知識や、偏った栄養摂取で発生する疾病を学習した上で、栄養バランス、食材の組合せの方法を知り、健康を維持していくために自分(家族)の食生活を見直し、改善方法を見つけ、実践(改善)していく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、食品の成分とは 第2回：糖質の機能と疾病、自分の食生活の課題に気づく 第3回：タンパク質の機能と疾病、自分の食生活の課題に気づく 第4回：脂質の機能と疾病、自分の食生活の課題に気づく 第5回：ビタミン、ミネラルの働き、自分の食生活の課題に気づく 第6回：栄養バランスの見極め方、自分の食生活の課題に気づく 第7回：自らの食生活の課題解決方法を探る(プレゼンテーション) 第8回：まとめ・試験			
テキスト 栄養学に関する資料を授業内容に応じて配付する。			
参考書・参考資料等 栄養学に関する資料を授業内容に応じて配付する。			

学生に対する評価

試験（50%）、毎回の授業後の小テスト（20%）、提出物（30%）

教科に関する科目：シラバス

授業科目名： 食物学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：畦 五月 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分	教科に関する専門的事項 ・食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）		
【授業のテーマ】 健康的な生活を送るための食生活の基本である、栄養学の内容を中心に授業をすすめる。さらに栄養を含む食品への理解を深めるためにその調理性及び、加工についての理解を深める。			
【授業の到達目標】 1. 食品の栄養成分を理解し、その消化・吸収、代謝の仕組みを理解する。 2. 各栄養素を多く含む食品について理解する。 3. 植物性及び動物性食品の特性と調理性について理解する。			
授業の概要 現代の食生活の特徴を捉え、課題を認識する。その上で、食物を摂取した際に得られる栄養成分の体内での吸収・代謝の仕組みを学習することで、健康的な食生活を送るための基礎的知識を得る。 また、食品の調理性を理解することにより食品個々の性質を知り、その性質を利用したさまざまな加工についても理解する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：栄養学の基礎 第3回：日本人の食生活とその現状 第4回：栄養と代謝 第5回：児童生徒の食生活 第6回：消化吸収の仕組み 第7回：糖質・脂質を多く含む食品 第8回：タンパク質を多く含む食品 第9回：糖質・脂質を多く含む食品 第10回：ビタミンの代謝 第11回：植物性食品の加工 第12回：植物性食品の調理性 第13回：動物性食品の加工 第14回：動物性食品の調理性 第15回：まとめ 定期試験			

教科に関する科目：シラバス

テキスト

- ・「基礎栄養学(第三版)」江指隆年編著 同文書院、
- ・「食べ物と健康」吉田勉監修 学文社 (平成24年)

参考書・参考資料等

文科省(平成29年) 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編

文科省(平成30年) 高等学校学習指導要領 家庭編

学生に対する評価

試験60%、プレゼンテーション40%により評価する。

授業科目名： 住居学概論（製図を含む。）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 金 貞均
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・住居学		
授業のテーマ及び到達目標 本講義では、人間生活の基盤である住居を各分野から総合的に概説し、住居領域の基礎的実践力を養う。住居と住生活に関する基礎知識の修得および課題探究を通して、①住居と住生活に関する基礎知識を理解し、説明できる、②住生活問題を認識し、改善方法を提案できる、③健全な住意識や的確な住要求を身につけることを到達目標とする。			
授業の概要 ・空間理論を実際の生活空間や場面に適用し、問題を検証、改善方法を提案する。 ・住宅図面の読み方、描き方が分かり、製図のルールに従って平面図を作図する。 ・自分の住む地域の住まい・まちの地方性、問題から調査テーマを立て、探検・調査を行い、報告書をまとめ、発表する。 ・住まい・まち・都市等、暮らし環境を題材にした絵本をリストアップし、住環境教育・学習の教材として用いた授業案を構想し、発表する。 ・住まいの本質について、「住まいとは〇〇である」と定義し、考えを文章にまとめる。			
授業計画 第1回：日本の住居と生活様式（1） 第2回：日本の住居と生活様式（2） 第3回：日本の住まいの近代化 第4回：生活行為と住空間構成（課題①） 第5回：私的・公的空間／住まい方 第6回：家事労働空間／使い方 第7回：住まいを設計する／図面の読み方 第8回：住まいを設計する／図面の描き方（課題②） 第9回：住まいと安全 第10回：快適な住環境と健康 第11回：住まいの維持管理 第12回：高齢期の住まい 第13回：絵本にみる住まい・まち（課題③） 第14回：住まい・まちの探検・調査（特色・問題点を見つけよう（課題④） 第15回：総括、住教育の意義と課題			

定期試験は実施しない。

テキスト

参考書・参考資料等

初めて学ぶ住居学（〈建築のテキスト〉編集委員会編，学芸出版社，2015）

私たちの住居学（中根芳一編著，理工学社，2006）

最新住居学入門（後籾久監修，実教出版，2004）

日本人のすまい（平井聖著，市ヶ谷出版社，1998）

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

授業態度（10％），レポートや課題の提出状況および発表（60％），小テスト（30％）により本授業科目の到達目標への達成度を総合的に評価する。

授業科目名： 住生活学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 金 貞均
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 住居学		
授業のテーマ及び到達目標			
本講義では、居住者や生活者の視点から人間居住に関わる現代的論点を幅広く取り上げ、住居領域における高度な専門的実践力を培う。授業を通して、①今日の住生活や住環境を取り巻く状況や問題点を理解し説明できる、②問題解決のために客観的で科学的な対応ができる、③身近な住空間と住生活の改善・向上のための実践的態度や能力を身につける、ことを到達目標とする。			
授業の概要			
・ 各テーマに関する今日の問題と課題を明確にし、資料調査の計画を立てる。 ・ 関連資料を収集し、課題まとめの大筋を立てる（事前相談及び指導→追加調査実施） ・ レポートをまとめ、プレゼンテーション用パワーポイントを作成する。 ・ プレゼンテーションを行い、「私からの一言・分かったこと」にコメントを書き、意見交換を行う。			
授業計画			
第1回：住生活・住環境の問題を探る			
第2回：人権と住まい			
第3回：家族の変容と住まい			
第4回：都市居住とコミュニティ			
第5回：高齢社会と住まい・まち			
第6回：住まいの地域性			
第7回：住宅は商品か			
第8回：環境と住まい			
第9回：健康と住まい			
第10回：防災と住まい			
第11回：防犯と住まい			
第12回：住情報の現状と課題			
第13回：東アジアの居住比較（共通性・類似性・違いから学ぶ）			
第14回：住環境教育の課題と実践			
第15回：全体討議			
定期試験は実施しない。			

テキスト

参考書・参考資料等

授業中，文献の探し方および参考文献を適宜紹介する。

必要に応じて資料を配布する。

学生に対する評価

授業態度（10％），レポートの提出状況（60％），課題発表（30％）等により本授業科目の到達目標への達成度を総合的に評価する。

授業科目名： 住居設計・製図	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 金 貞均
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・住居学		
授業のテーマ及び到達目標			
本講義では、住空間の構成原理と設計手法を学び、表現の基礎的技術を習得することを目 標とする。住生活を想定した小住宅の計画・設計・製図を通して、①住まいの総合的理解を基に 住空間を具体的にイメージできる、②実際の空間感覚およびスケール感覚を身に付け、③住空 間を創造し図面上に表現できる能力を養う。			
授業の概要			
・住宅平面図のトレースを通して製図のルールを学び、理解する。 ・提示された条件と自分が設定した条件に基づいて2階建て住宅の平面を構想し、エスキスを 行う。 ・空間構成原理と各自の設計趣旨に基づいて具体案を固め、1F・2Fの平面図を作図する。 ・平行透視図法を用いてインテリアパースを完成させる。 ・2階建て住宅の外観を構想し、模型を製作する。			
授業計画			
第1回～第2回：木造平屋建住宅平面のトレース（課題①：1/50の平面図）			
第3回～第8回：2階建住宅の設計・製図（課題②：1/50の平面図） 敷地の選定、住み手の設定、空間の使い方など、設計を行う上での基本的 条件設定を行い、それらに基づいて実際に住める家を設計・製図する。 プランニングのプロセスをかならずスケッチして置くこと（課題と一緒に 提出）。			
第9回～第12回：インテリアパース（課題③：1/30のパース） 2階建住宅の平面図から一つの空間を選び、インテリアを自由に計画し、 スタイル、色、材質など、全体の調和を考えながら室内透視図を完成さ せる。			
第13回～第15回：2階建住宅の模型制作（課題④：1/100の模型） 現代住宅のペーパークラフトを用いて模型制作の演習を行った上で、各自 設計した住宅の模型を制作する。			
定期試験は実施しない。			
テキスト			

参考書・参考資料等

建築製図 基本の基本（櫻井良明著，学芸出版社，2010）

よむ住宅プランニング（宮元健次，学芸出版社，1999）

その他，必要に応じて適宜資料を配布する。

学生に対する評価

授業態度（20％），設計・製図課題（80％）をもって本授業科目の到達目標への達成度を総合的に評価する。

授業科目名： 住居学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：金貞均 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 住居学		
授業の到達目標及びテーマ （授業のテーマ） 住居と住生活に関する基礎知識の修得および課題探究 （授業の到達目標） 住居と住生活に関する基礎知識の修得および課題探究を通して、①住居と住生活に関する基礎知識を理解し、説明できる、②住生活および住環境問題を認識し、改善・解決方法を提案できる、③健全な住意識や住要求を身につけることを到達目標とする。			
授業の概要 住まいを時間軸と空間軸から捉え、住まいの機能・役割や住文化の継承と発展の様相を学び、今日の住生活および住環境を取り巻く状況や問題点を探究する。			
授業計画 第1回：日本の住居と生活様式 第2回：日本の住まいの近代化 第3回：生活行為と住空間の構成 第4回：間取りの計画と住まい方・使い方の分析 第5回：住宅平面図を読む 第6回：住宅平面図を描く 第7回：住まいの日常的管理 第8回：高齢期の住まい 第9回：災害と住まい 第10回：健康で快適な住まい 第11回：環境と住まい 第12回：地域性から住まいのかたちを問う 第13回：地域の伝統的な住まい・まちの調査（フィールドワーク） 第14回：地域の伝統的な住まい・まちの調査報告会 第15回：総括 住教育の意義と課題			
テキスト 必要に応じて適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等			

精選住居学（後藤久著、実教出版、2016）

初めて学ぶ住居学（＜建築のテキスト＞編集委員会編、学芸出版社、2015）

図解住居学2 住まいの空間構成（図解住居学編集委員会編、彰国社、2000）

図解住居学4 住まいと社会（図解住居学編集委員会編、彰国社、2005）

建築製図 基本の基本（櫻井良明著、学芸出版社、2010）

日本人のすまい（平井聖著、市ヶ谷出版社、1998）

学生に対する評価

授業テーマ別レポート（70%）、フィールドワーク報告書と発表（30%）

授業科目名：		教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名： 磯部 香
保育学		必修科目	2単位	担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 保育学（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 (授業のテーマ) 家庭科の保育領域から，中学生・高校生に教える保育，及び，保育周辺領域を家族・ジェンダー・グローバルな視点で理解する。 (授業の到達目標) 保育・子育てを取り巻く最近の課題について理解できる。 グローバルな視点を養い，保育・子育てを相対化できる力を身につけることができる。 保育施設に赴き調査を遂行する能力，その結果を共有し表現する能力を修得できる。				
授業の概要 本授業では，中学・高校の家庭科免許のために必要な理論と実践をふまえつつ，保育・子育て周辺の領域である，家族，地域，政策，ジェンダーの側面から，日本を含めたアジアの保育・子育ての現状と課題を学ぶ。また実際にフィールドワーク調査に行き，体感することでグローバルな視点から保育・子育てを理解する。				
授業計画 第1回：オリエンテーション (授業の目標，テーマ，概要，評価，注意事項，学習指導要領における本授業の位置付け) 第2回：親性準備性とは？ (「親性準備性」について理解し，その課題を明確にする) 第3回：性別役割分業意識とイクメン (性別役割分業意識，及び，子育て・家族の中の問題の所在がどこにあるかを考える) 第4回：子どもの貧困 (福祉学・社会学の視点から子育て・家族の中の問題の所在がどこにあるかを理解する) 第5回：少子化と子育ての社会化 (人口学，社会学の視点を導入し，少子化減少・子育て支援対策について理解する) 第6回：ジェンダー・性的多様性を考える (教育現場のジェンダー平等・性的多様性の実現に向けての取り組みと課題を考える) 第7回：アジアの保育・子育て① (中国の子育て事情・家族・子育て支援・教育政策を理解する) 第8回：アジアの保育・子育て② (台湾の子育て事情・家族・子育て支援対策を理解する) 第9回：保育と多文化共生 (多文化共生社会の保育の最新動向と課題について理解する) 第10回：家庭看護 (家庭看護の基礎を修得する) 第11回：実習の事前準備 (実習に向けて留意すべき点，園児・保育者の観察するべき点を整理し討論する) 第12回：保育実習① (保育施設に赴き，園児・保育者の言動を観察する) 第13回：保育実習② (子育て支援施設に赴き，子育ての専門家に聞き取り調査を行う) 第14回：グループディスカッション				

(実習で得た知見を共有するため、グループディスカッションを行う) 第15回 : プレゼンテーション (実習で得た気づき・学びを受講生の前でプレゼンテーションをする。本授業全体の総括) 定期試験は実施しない。
テキスト 適宜資料を配布する。
参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編』（平成29年7月），『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 家庭編』（平成30年7月）
学生に対する評価 授業の参加態度（ディスカッション・発言：20％），プレゼンテーション（20％），学期末レポート（60％）

授業科目名： 保育学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松井 剛太
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・保育学（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ （授業の到達目標） ・「保育学」のテーマに関して、文献の情報を収集し、整理することができる。 ・「保育学」のテーマに関して、整理した情報をもとに対話し、結論を導くことができる。 （授業のテーマ） 「保育学」に関するテーマとして、「乳幼児の発達」、「乳幼児の文化財（絵本やおもちゃなど）」、「中高生と乳幼児のふれあい体験」、「家庭看護」の4つを扱う。			
授業の概要 上記の4つのテーマに関して、文献購読をもとに理解を深める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：「乳幼児の発達」：発達の基本について（1） 第3回：「乳幼児の発達」：家庭での生活について（2） 第4回：「乳幼児の発達」：保育施設での生活について（3） 第5回：「乳幼児の文化財」：絵本について（1） 第6回：「乳幼児の文化財」：おもちゃについて（2） 第7回：「乳幼児の文化財」：デジタルデバイスについて（3） 第8回：「中高生と乳幼児のふれあい体験」：ふれあい体験の目的について（1） 第9回：「中高生と乳幼児のふれあい体験」：ふれあい体験のプログラムについて（2） 第10回：「中高生と乳幼児のふれあい体験」：ふれあい体験の評価について（3） 第11回：「家庭看護」：食事について（1） 第12回：「家庭看護」：健康管理について（2） 第13回：「家庭看護」：病気について（3） 第14回：個々の関心に応じて、さらに深めた内容を共有 第15回：まとめ			
テキスト			

特になし
参考書・参考資料等 「家庭科保育学習 中学生と乳幼児のふれ合い体験事例集」
学生に対する評価 毎回の授業の事前に提出するレポート（30％）、授業への参加（履修生間での対話）（50％）、授業後の小レポート（20％）

授業科目名： 家庭科内容構成		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 畦五月・一色玲子
				担当形態：複数
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		
【授業のテーマ】 家庭科教員としての資質と能力を高めるため、家庭科教育の目標と内容を理解し、家庭科の教材研究能力を高めつつ各自の指導観や教材観を養う。それに基づいて具体的に家庭科の授業設計を実施するための基礎的能力と技能を養う。				
【授業の到達目標】 1. 家庭科教育の目標と特質を理解し、指導に生かすことができる。 2. 家庭科のカリキュラムや学習内容を理解したうえで発展性のある学習内容をつくることができる。 3. 新しい資料や教材に関する研究成果を効果的な学習指導の立案に生かすことができる。 4. 家庭科の評価について理解し、学習指導計画に生かすことができる。 5. ICTなどの効果的な活用方法について理解し、指導に生かすことができる。				
授業の概要 教科教育と教科内容の架橋となる授業として、教科教育と教科内容の専門性を持つ教員で実施する授業である。家庭科の学習内容（家族・家庭経営・食生活・衣生活・住生活と環境・保育等）の知識・理解を教材研究により深めるとともに、授業実践事例の研究を通して家庭科授業を構想する総合的能力の習得をめざす。教材や先行する実践事例の収集とその分析、研究成果の発表と討議をとりいれる。				
授業計画 第1回：オリエンテーション、家庭科の特質と課題、教材研究の意義 第2回：家庭科授業の題材構成と年間指導計画 第3回：家庭科における到達目標と評価の観点 第4回：情報機器の効果的な利用と課題 第5回：テーマ別の題材と学習内容の構想Ⅰ（資料収集） 第6回：テーマ別の題材と学習内容の構想Ⅱ（資料調査） 第7回：構想発表 第8回：構想発表についての討議 第9回：学習指導案の作成（授業のねらいの明確化） 第10回：学習指導案の作成（学習者の認識過程と指導方法） 第11回：学習指導案についてのテーマ別グループ討議（家族・家庭生活・家庭経済） 第12回：学習指導案についてのテーマ別グループ討議（衣・食・住生活） 第13回：グループ討議の結果・成果の発表（家族・家庭生活・家庭経済） 第14回：グループ討議の結果・成果の発表（衣・食・住生活） 第15回：教科観の再考と教材観の総括 最終レポート				
テキスト：開隆堂 「わたしたちの家庭科5・6」（小学校家庭科教科書）、「技術・家庭 家庭分野」（中学校家庭科教科書）、「家庭基礎」「家庭総合」（高等学校家庭科教科書）				
参考書・参考資料等：文部科学省(平成29年)小学校学習指導要領解説 家庭編 文部科学省（平成29年）中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 文部科学省（平成30年）高等学校学習指導要領解説 家庭編				
学生に対する評価：提案レポート 30%、学習指導案・ワークシート 30%、模擬授業 20%、最終レポート 20%				

授業科目名： 持続可能な生活づくり	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 坂本有芳、磯部香 担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		
授業のテーマ及び到達目標 (授業のテーマ) 生活者の視点から四国の様々な事象をとらえて課題を設定し、持続可能な社会づくりに向けて解決する力を養う。 (授業の到達目標) ・ 私たちの取り巻く家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化を複合的に理解できる。 ・ 四国の特徴や抱える特有の生活課題を日本そしてアジアといったグローバルな視点でとらえ相対化し、解決のための行動変容を具体的に提案する。			
授業の概要 オンライン（同期／非同期）と対面型のハイブリッド型の集中講義とする。各界のゲストスピーカーを招いたレクチャーにより、私たちを取り巻く生活課題を複合的に理解する。さらにフィールドワーク調査によって課題をつかみ、四国に集う大学生同士で議論やプレゼンテーションを行い、問題解決に向けて共に「答え」を探索する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 持続可能な生活づくりとは何か？（担当：坂本、磯部） 第2回：大量消費社会の問題①：衣服ロス問題（担当：坂本） 第3回：大量消費社会の問題②：食品ロス問題（担当：坂本） 第4回：製造のグローバル化と生活安全の確保（担当：坂本） 第5回：ライフオーガナイズによる持続可能な生活創り（担当：坂本） 第6回：ローカルSDGs（地域循環共生圏）実現の取り組み（担当：坂本） 第7回：グローバルの視点で地域間格差を考える① 農村振興（担当：磯部） 第8回：グローバルの視点で地域間格差を考える② 高齢者政策（担当：磯部） 第9回：グローバルの視点で地域間格差を考える③ 外国人ケア労働者（担当：磯部） 第10回：四国での生活を考える（担当：坂本、磯部）著名なゲストスピーカー招聘 第11回：フィールドワークとは何か？調査方法・分析視角（担当：磯部） 第12回：フィールドワーク調査① 四国の生活文化とその可能性（担当：坂本、磯部） 第13回：フィールドワーク調査② 四国の少子高齢化と課題（担当：坂本、磯部） 第14回：グループ・ディスカッション（担当：坂本、磯部） 第15回：グループごとのプレゼンテーション（担当：坂本、磯部） 定期試験は実施しない。			
テキスト 授業中に適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 学期末レポート（60%），ミニレポート（20%），ディスカッション・プレゼンテーション（20%）			

授業科目名： 中等家庭科教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 速水 多佳子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 家庭科に関する基礎的な知識を身に付けるとともに学習指導方法を学ぶ。家庭科教育の内容理解に基づいた教材研究を行い、実践的指導力を培う。 到達目標は、家庭科教育の理念と課題を理解すること、家庭科の指導内容と指導方法を理解すること、情報機器及びICT教材を活用した学習指導案の作成ができることである。			
授業の概要 生徒の生活実態をふまえた学習指導ができる教育実践力の高い教員となるために、家庭科教育の課題を理解するとともに家庭科の基礎的知識を身に付け、演習を通して指導方法を学ぶ。			
授業計画 第1回：家庭科教育の変遷と理念 第2回：社会の変化と子供の生活実態 第3回：家庭科教育の今日的課題Ⅰ（社会の変化と家庭科） 第4回：家庭科教育の今日的課題Ⅱ（子どもの生活実態と家庭科） 第5回：家庭科教員の資質と役割 第6回：家庭科の指導内容Ⅰ（中学校学習指導要領から見た指導内容） 第7回：家庭科の指導内容Ⅱ（高等学校学習指導要領から見た指導内容） 第8回：家庭科の教材研究と指導方法Ⅰ（ロールプレイング他） 第9回：家庭科の教材研究と指導方法Ⅱ（ディベート他） 第10回：家庭科の教材研究と指導方法Ⅲ（実験・実習） 第11回：家庭科の教材研究と指導方法Ⅳ（情報機器及びICT教材の活用） 第12回：授業設計の方法 第13回：学習指導案の作成Ⅰ（書き方） 第14回：学習指導案の作成Ⅱ（演習） 第15回：学習評価の方法 定期試験は実施しない。			
テキスト ・中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編（文部科学省） ・中学校 技術・家庭科（家庭分野）教科書			

参考書・参考資料等

- ・高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 家庭編（文部科学省）
- ・高等学校「家庭基礎」教科書

学生に対する評価

レポート (30%), 授業中の課題 (20%), 学習指導案作成力 (30%), 授業への積極的参加度 (20%)

授業科目名： 中等家庭科授業論		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名： 速水 多佳子	
						担当形態：単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
授業のテーマ及び到達目標 家庭科に関する実践的指導力を培うことを目的とする。生徒の生活実態を踏まえた学習指導のあり方について、授業実践事例をもとに検討し、教材研究、模擬授業実践、授業分析を行う。 到達目標は、実践的・体験的な学習活動を取り入れた授業設計ができること、情報機器及びICT教材を活用した模擬授業実践ができること、授業を分析・評価ができることである。							
授業の概要 各自が作成した学習指導案をもとに、模擬授業実践を中心に進める。模擬授業に教員役、生徒役として参加し、授業実践後は改善点を相互に指摘し合って、学習指導案を練り直す。							
授業計画 第1回：社会の変化と生徒の実態 第2回：社会の変化に対応した家庭科教育の意義 第3回：家庭科の教材研究Ⅰ（家族領域の指導内容と指導方法） 第4回：家庭科の教材研究Ⅱ（食生活領域の指導内容と指導方法） 第5回：家庭科の教材研究Ⅲ（衣生活領域の指導内容と指導方法） 第6回：家庭科の教材研究Ⅳ（住生活領域の指導内容と指導方法） 第7回：家庭科の教材研究Ⅴ（消費生活・環境領域の指導内容と指導方法） 第8回：家庭科の教材研究Ⅵ（ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動） 第9回：情報機器及び教材を活用した模擬授業実践と授業分析Ⅰ（家族領域） 第10回：情報機器及びICT教材を活用した模擬授業実践と授業分析Ⅱ（食生活領域） 第11回：情報機器及びICT教材を活用した模擬授業実践と授業分析Ⅲ（衣生活領域） 第12回：情報機器及びICT教材を活用した模擬授業実践と授業分析Ⅳ（住生活領域） 第13回：情報機器及びICT教材を活用した模擬授業実践と授業分析Ⅴ（消費生活・環境領域） 第14回：模擬授業の分析と授業評価の方法 第15回：学習指導案の改善 定期試験は実施しない。							
テキスト ・ 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編（文部科学省） ・ 中学校 技術・家庭科（家庭分野）教科書							

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

レポート（20％）、学習指導案作成力（20％）、模擬授業実践力（20％）、授業評価分析力（20％）、授業への積極的参加度（20％）

授業科目名： 中等家庭科教材論	教員の免許状取得のための (中)必修科目／(高)選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西川和孝、金貞均、坂本有芳 担当形態： 複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中等教育家庭科における教材探究および開発を目的とする。主に食物学、家庭経済学および住居学領域を中心に教材の提示、分析、開発、評価および発表等を行うことにより、①家庭科の領域別実験・実習教材を理解する、②家庭科の領域別実験・実習教材を開発することができる、③開発教材を評価し改善できる、④当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる、といった能力の育成をめざす。			
授業の概要 ・ 中学校家庭科の食物・家庭経済・消費生活・住居領域に関する教材の開発に取り組む。 ・ 紙パックを用いて住まいの耐震性について理解する実践教材を作成する。部屋の見取り図を描き、地震発生時の安全点検および家具転倒防止の必要性和対策について意見を述べ合う。 ・ 家の紙模型を使って、まちづくりワークショップを行う。 ・ 情報機器やICT教材を使用・活用する。			
授業計画 第1回：中学校学習指導要領 技術・家庭編（食物領域）の解説 第2回：高等学校学習指導要領 家庭編（食物領域）の解説 第3回：食物領域の実験・実習教材の事例収集 第4回：食物領域の実験・実習教材の作成 第5回：食物領域の開発教材の検証と改善 第6回：中学校学習指導要領 技術・家庭編（家庭 家庭経済・消費生活領域）の解説 第7回：高等学校学習指導要領 家庭編（家庭 家庭経済・消費生活領域）の解説 第8回：家庭経済・消費生活領域の演習教材の事例収集 第9回：家庭経済・消費生活領域の演習教材の作成 第10回：家庭経済・消費生活領域の開発教材の検証と改善 第11回：中学校学習指導要領 技術・家庭編（住居領域）の解説 第12回：高等学校学習指導要領 家庭編（住居領域）の解説 第13回：住居領域の実験・実習教材の事例収集 第14回：住居領域の実験・実習教材の作成 第15回：住居領域の開発教材の検証と改善			

定期試験
テキスト 中学校学習指導要領 技術・家庭編、高等学校学習指導要領 家庭編
参考書・参考資料等 必要に応じてプリントを配付する。
学生に対する評価 授業時の参加姿勢、レポート、試験等により総合的に評価する。

授業科目名： 中等家庭科教育特論	教員の免許状取得のための (中)必修科目／(高)選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：速水多佳子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ (授業のテーマ) 家庭科に関する実践的指導力を培うことを目的とする。家庭科の教科内容理解に基づいた教材研究，模擬授業を行い，実践後に授業分析を重ねる中で，授業実践力や授業評価力，そして教員として必要なコミュニケーションスキルについても高めていくことを目指す。 (授業の到達目標) 家庭科の各内容の専門的な知識を基にした授業設計ができること，模擬授業実践ができること，授業を分析・評価ができる能力を身に付けることである。			
授業の概要 各自が作成した学習指導案を基に，模擬授業の実践を中心に進める。受講者は教員役と生徒役を担当し，授業後は改善点を相互に指摘し合って学習指導案を練り直していく。			
授業計画 第1回：家庭科教育の意義と課題 第2回：家庭科教員の資質・能力 第3回：家庭科における学習指導方法と工夫（1）家族・家庭生活 第4回：家庭科における学習指導方法と工夫（2）食生活 第5回：家庭科における学習指導方法と工夫（3）衣生活 第6回：家庭科における学習指導方法と工夫（4）住生活 第7回：家庭科における学習指導方法と工夫（5）消費生活と環境 第8回：授業設計と学習指導案の作成 第9回：情報機器及び教材を活用した模擬授業と授業評価（1）家族・家庭生活 第10回：情報機器及び教材を活用した模擬授業と授業評価（2）食生活 第11回：情報機器及び教材を活用した模擬授業と授業評価（3）衣生活 第12回：情報機器及び教材を活用した模擬授業と授業評価（4）住生活 第13回：情報機器及び教材を活用した模擬授業と授業評価（5）消費生活と環境 第14回：模擬授業の分析と学習指導案の検討 第15回：学習評価の方法			
テキスト ・ 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編（文部科学省）			

・高等学校学習指導要領解説 家庭編（文部科学省）
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 レポート（20％），学習指導案作成力（20％），模擬授業実践力（20％），授業評価力（20％）， 授業への積極的参加度（20％）

授業科目名： 中等家庭科実践研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 一色玲子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業では、家庭科教育法の中でも教育評価と授業研究の理論と実践を取り入れ、授業実践力を育成することを目指す。 ・家庭科授業の評価方法について、事例をもとに説明することができる。 ・授業研究を通して、中学・高校家庭科の授業作りの実践的能力を備えることができる。			
授業の概要			
本授業では、前半は教育評価の理論や家庭科の事例を中心に講義を行う。さらに、評価を核とした授業研究を協働で実施し、模擬授業や学校現場での実践（授業者は協力校の教員）をふまえて授業の効果や改善点について議論する。これら授業研究のプロセスを通して、授業作りの実践的能力を身に付けることを目的とする。			
授業計画			
第1回：ガイダンスー授業の進め方、模擬授業等の方法について			
第2回：家庭科授業の評価方法①教育評価の基礎的知識			
第3回：家庭科授業の評価方法②パフォーマンス評価の理論と実践			
第4回：家庭科授業の評価方法③ポートフォリオ評価の理論と実践			
第5回：授業研究の方法、国内外の家庭科授業研究の様相			
第6回：授業映像をもとにした授業検討			
第7回：家庭科の授業研究①評価を核とした授業の構想			
第8回：家庭科の授業研究②学習指導案の作成			
第9回：家庭科の授業研究③教材の作成			
第10回：家庭科の授業研究④模擬授業の実施			
第11回：家庭科の授業研究⑤模擬授業についての議論			
第12回：家庭科の授業研究⑥学習指導案の再検討			
第13回：家庭科の授業研究⑦再検討した授業の協力校での実践および観察			
第14回：家庭科の授業研究⑧学校現場での授業実践についての議論			
第15回：まとめーさらなる授業改善に向けて			
テキスト			
学習指導要領（平成29年改訂）中学校・高等学校			

参考書・参考資料等
・教育評価（田中耕治著、岩波書店、2008年） ・未来の生活をつくる 家庭科で育む生活リテラシー（日本家庭科教育学会編、明治図書、2019年） その他、授業時に適宜資料を配布する。
学生に対する評価 出席態度及び発言貢献度（30%）、学習指導案（30%）、レポート（40%）

授業科目名：		教員の免許状取得のための		単位数：		担当教員名：	
中等家庭科指導法Ⅰ		選択科目		2単位		小島郷子	
						担当形態：	
						単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
授業のテーマ及び到達目標 （授業のテーマ） 中学校技術・家庭科家庭分野および高等学校家庭科の授業を実践するために必要な知識、技能、実践力を身につける （授業の到達目標） ・中学校技術・家庭科の家庭分野および高等学校家庭科を指導するために必要な知識と技能を修得するとともに、実践的指導力を身につける。 ・学校教育の制度や簡単な歴史、中学校技術・家庭科家庭分野および高等学校家庭科の学習内容や学習方法、評価方法について理解する。 ・ICTを活用した教材研究の方法や授業づくりの方法についても学習するとともに、学習指導案の作成、模擬授業ができる。							
授業の概要 学習指導要領の内容を理解し、具体的な授業場面を想定した学習内容・学習方法・評価について理解するとともに、中学生・高校生の実態を踏まえた授業設計と学習指導案の作成を行い、模擬授業と振り返りを通して授業改善を行う。家庭科におけるICT（情報通信技術）の効果的な活用方法について学ぶ。							
授業計画 第1回：オリエンテーション 本科目の目的と到達目標、授業計画等を概説し受講生自らの課題を認識する 中学生および高校生の生活の現状と家庭科の課題 第2回：家庭科の歴史的理解と学習指導要領の目標・内容 第3回：SDGsの目標達成と家庭科教育 第4回：家庭科の学習内容・学習方法―家族・家庭生活・保育― 第5回：家庭科の学習内容・学習方法―食生活― 第6回：家庭科の学習内容・学習方法―衣生活― 第7回：家庭科の学習内容・学習方法―住生活― 第8回：家庭科の学習内容・学習方法―消費・環境― 第9回：家庭科の評価 第10回：教育の情報化と家庭科におけるICTの有効的な活用について ―電子黒板・デジタル教科書・タブレット端末の活用方法― 第11回：教材研究の理論と方法 第12回：授業設計と学習指導案の作成 第13回：模擬授業と振り返り ―家族・家庭生活・保育― 第14回：模擬授業と振り返り ―食生活・衣生活・住生活― 第15回：模擬授業と振り返り ―消費・環境― 定期試験							
テキスト 「教育の情報化に関する手引き」（文部科学省）							
参考書・参考資料等 平成29年告示中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 文部科学省							

平成30年告示高等学校学習指導要領解説 家庭編 文部科学省 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 技術・家庭】【高等学共 通教科 「家庭」】国立教育政策研究所教育課程研究センター 中学校 技術・家庭 家庭分野 教科書 高等学校 家庭基礎 家庭総合 教科書 中学校技術・家庭 家庭分野 デジタル教科書
学生に対する評価 定期試験（30％）、授業中の課題（20％）、学習指導案の作成及び模擬授業と授業改善（50％）